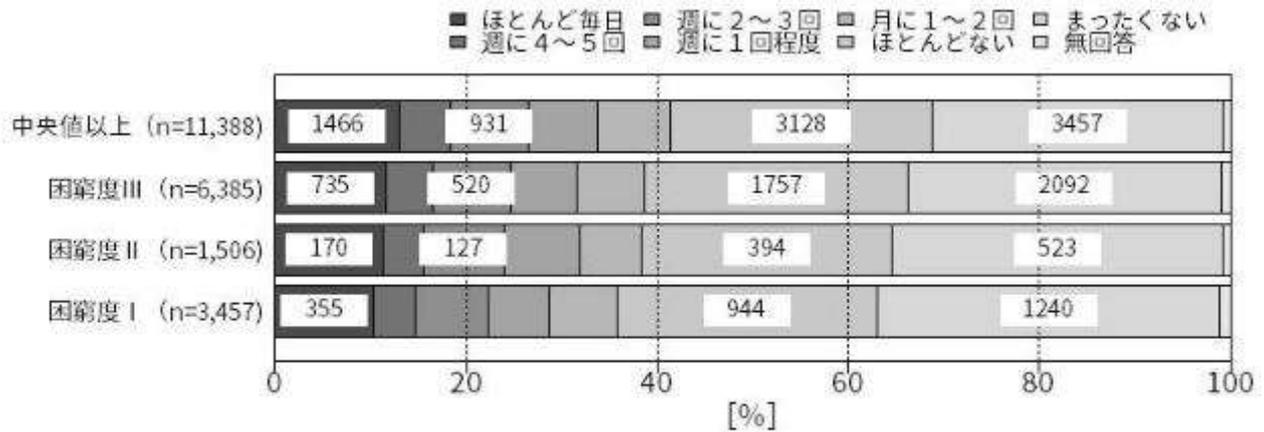


困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）  
 （子ども票 問10⑤）

<大阪市24区>



<大阪市港区>

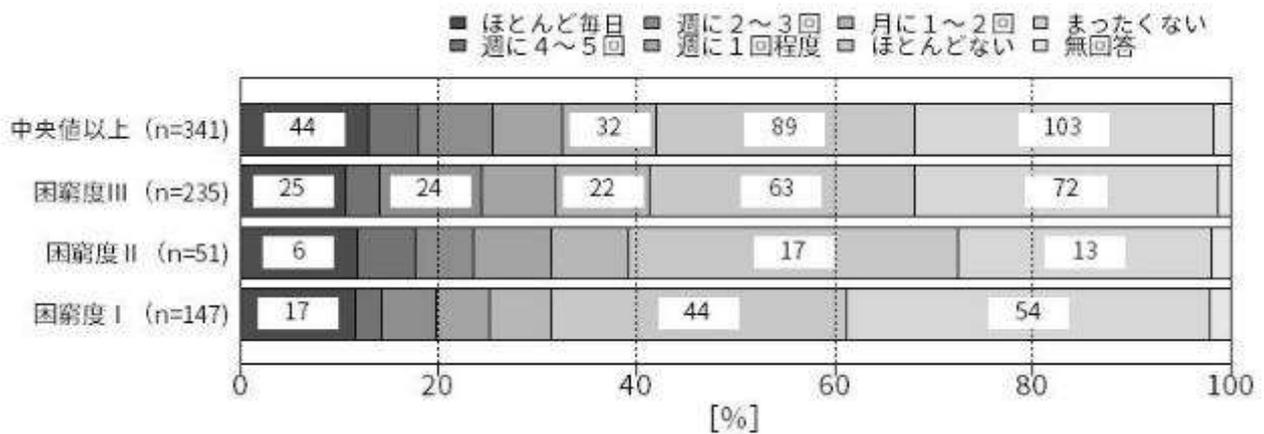


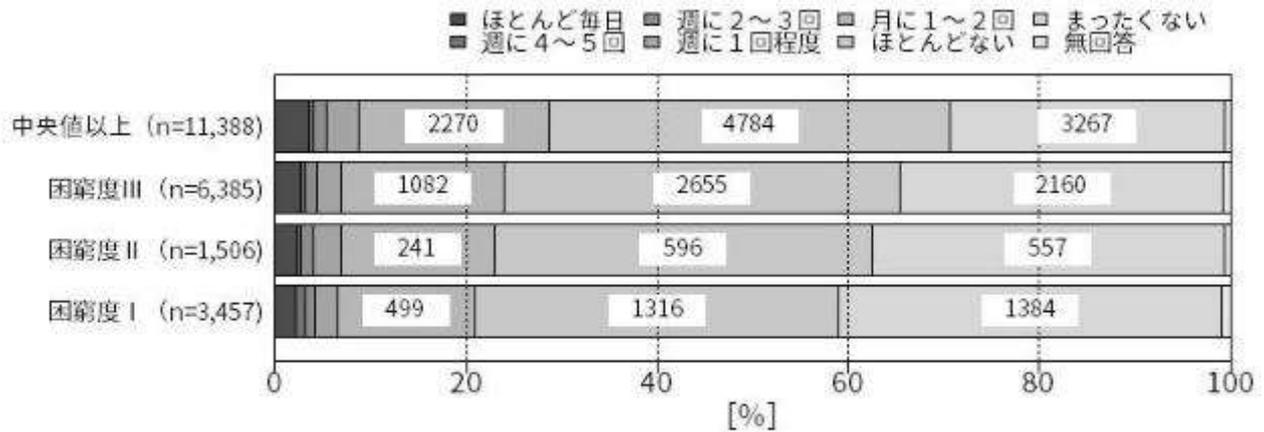
図 208. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくない」と回答した人の割合が高くなる傾向にある。困窮度Ⅰ群では、「まったくない」が36.7%、「ほとんどない」が29.9%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）

（子ども票 問10⑨）

<大阪市24区>



<大阪市港区>

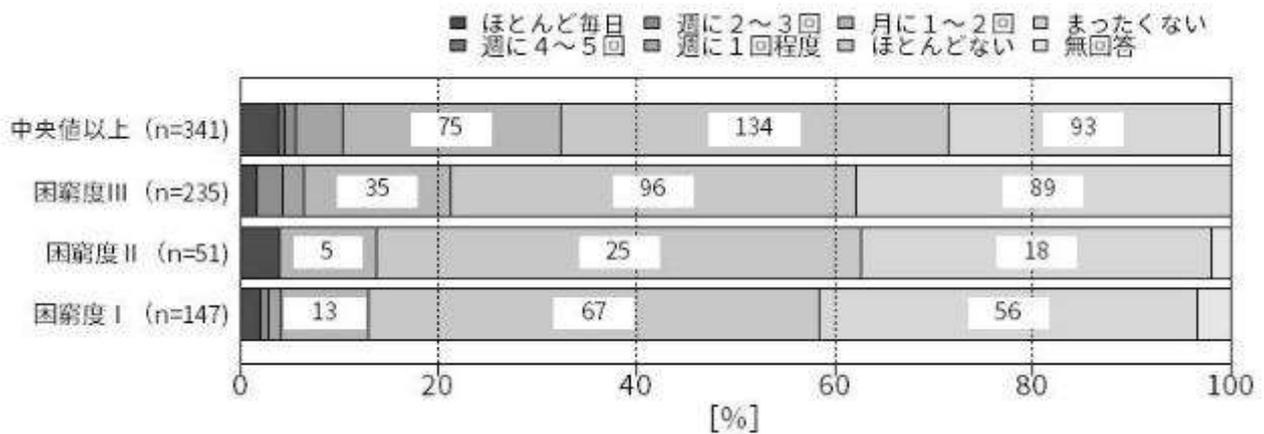
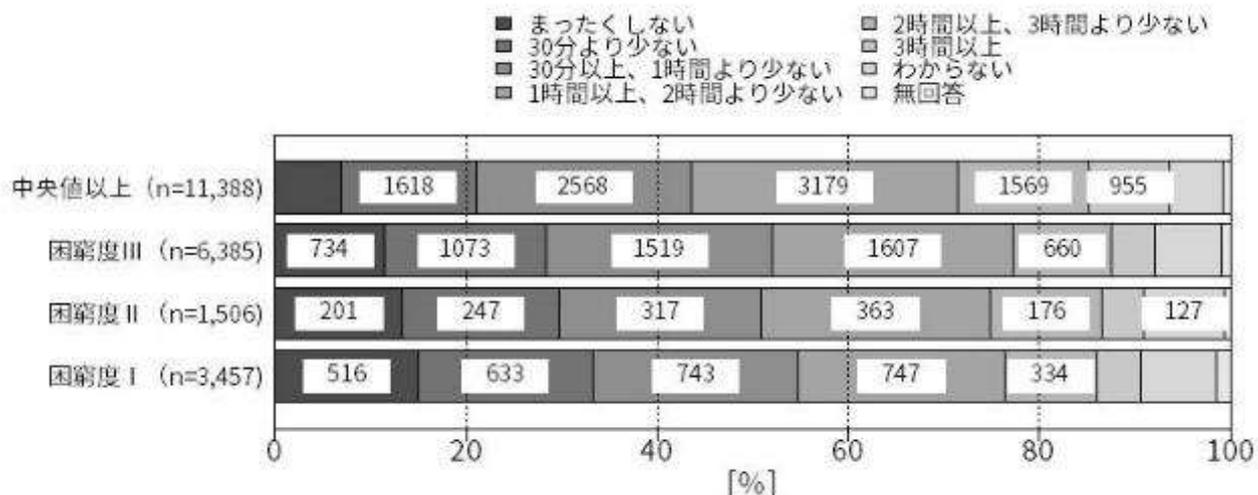


図 209. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「ほとんどない」・「まったくない」と回答した人の割合が高い傾向にある。困窮度Ⅰ群では、「ほとんどない」と回答した人は45.6%、「まったくない」と回答した人が38.1%であった。

困窮度別に見た、授業以外の勉強時間（子ども票 問 14）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

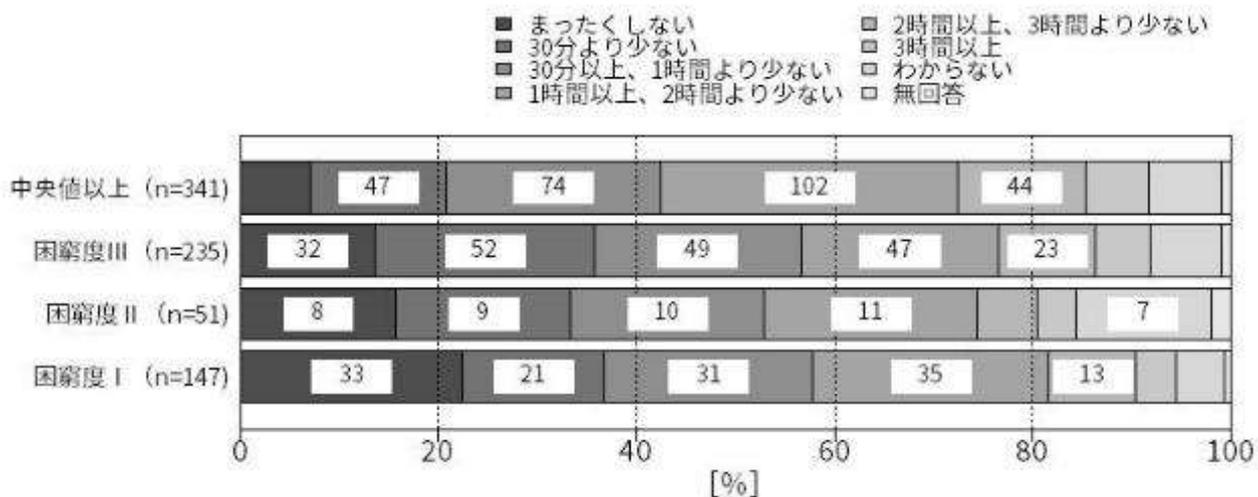
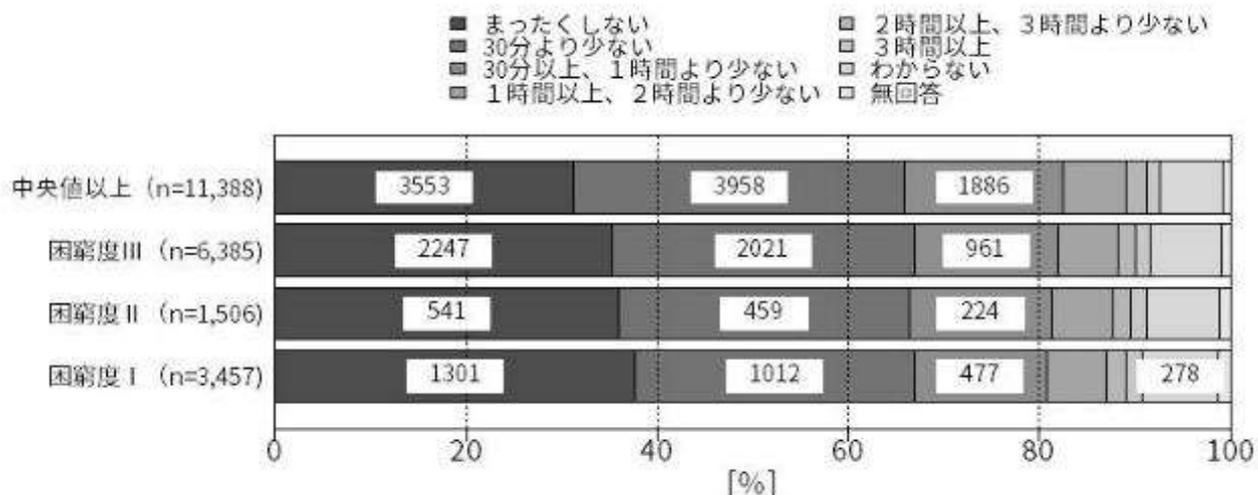


図 210. 困窮度別に見た、授業以外の勉強時間

困窮度別の授業以外の勉強時間を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくしない」・「30分より少ない」と回答した人の割合が高くなっている傾向にある。困窮度Ⅰ群では、「まったくしない」と回答した人は22.4%であった。

困窮度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票 問 19）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

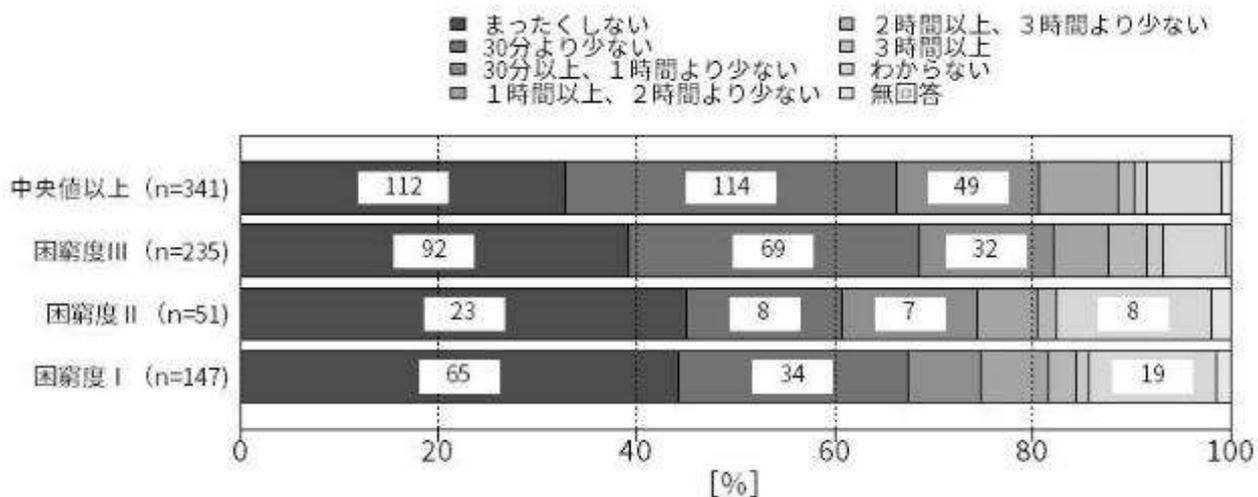
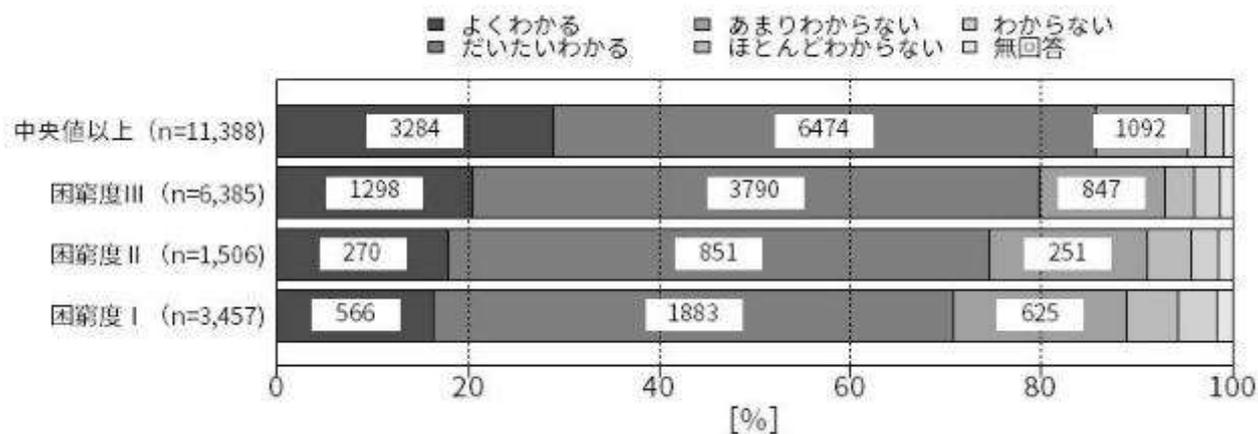


図 211. 困窮度別に見た、授業以外の読書時間

困窮度別の読書以外の勉強時間を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくしない」と回答した人の割合が高くなっている傾向にある。困窮度Ⅰ群では、「まったくしない」と回答した人は44.2%であった。

困窮度別に見た、学習理解度（子ども票 問 18）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

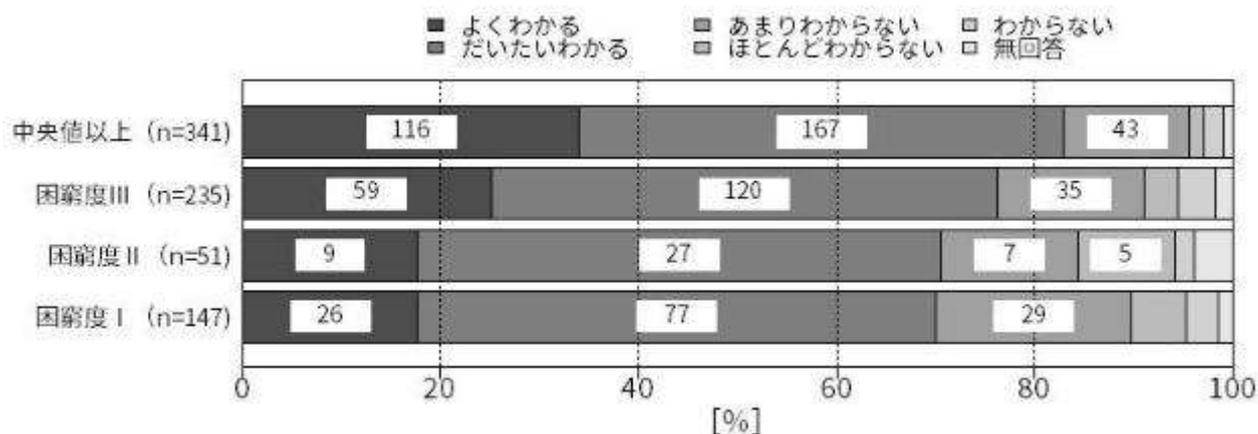
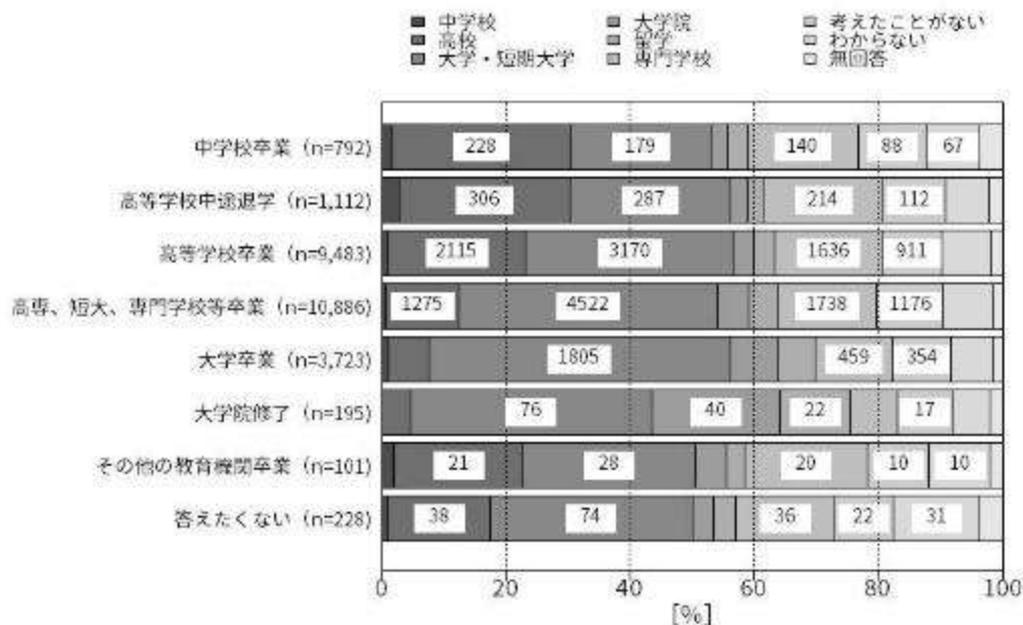


図 212. 困窮度別に見た、学習理解度

困窮度別の学習理解度を見ると、困窮度が高まるにつれ、「よくわかる」と回答した人の割合が低くなっている傾向にある。困窮度 I 群では、「よくわかる」と回答した人は 17.7%であった。

母親の最終学歴別に見た、希望する進学先（保護者票 問8 × 子ども票 問27）

<大阪市24区>



<大阪市港区>

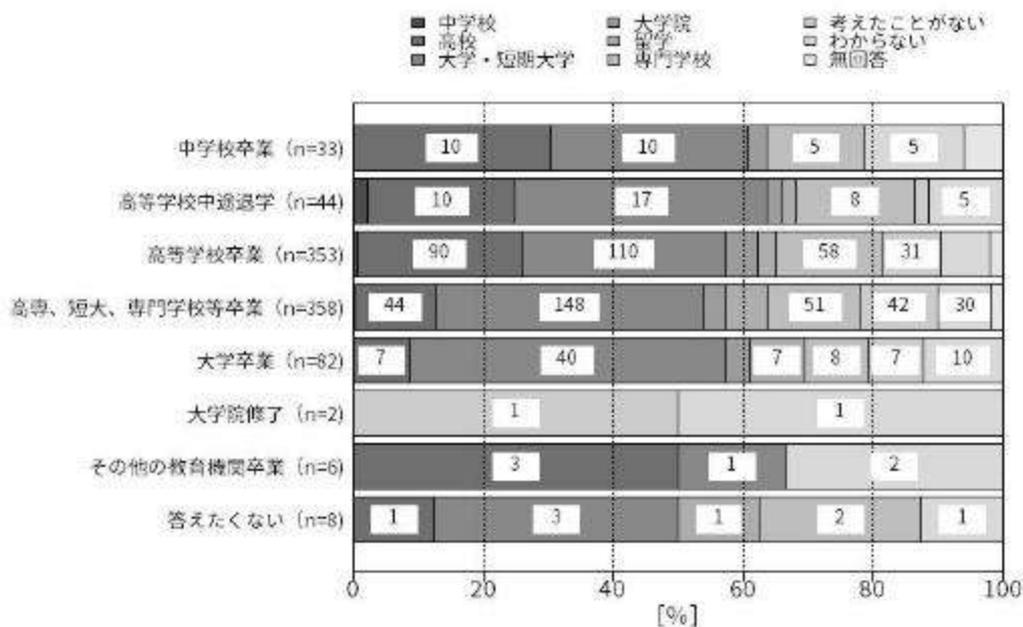
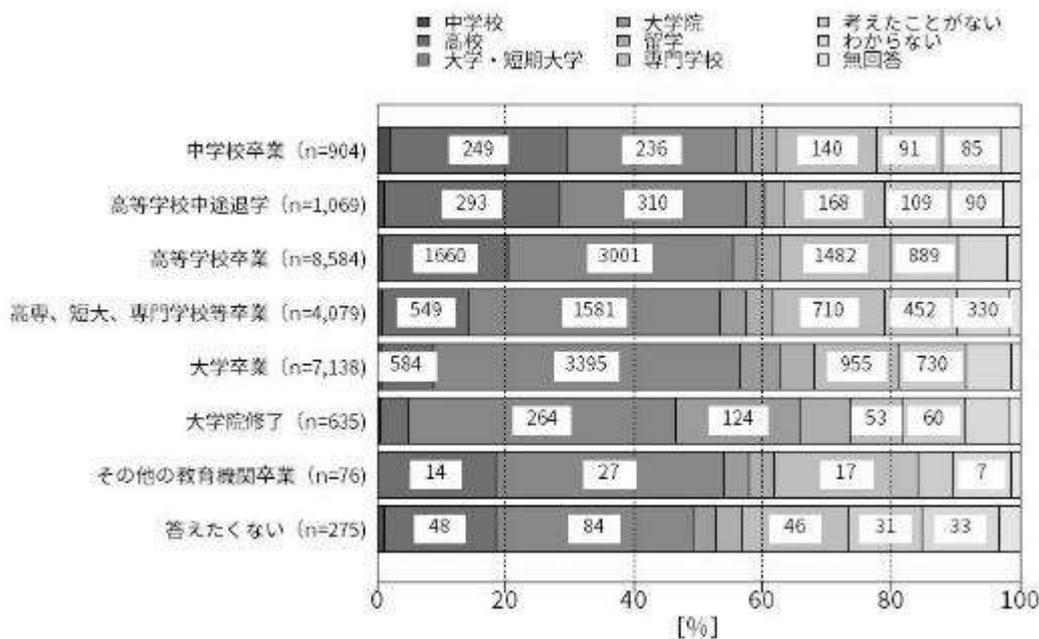


図 213. 母親の最終学歴別に見た、希望する進学先

母親の最終学歴別に子どもの希望する進学先を見ると、母親が中卒または高校中退者では、「中学校」または「高校」までと回答した子どもの割合が高くなっている傾向にある。

父親の最終学歴別に見た、希望する進学先（保護者票 問8 × 子ども票 問27）

<大阪市24区>



<大阪市港区>

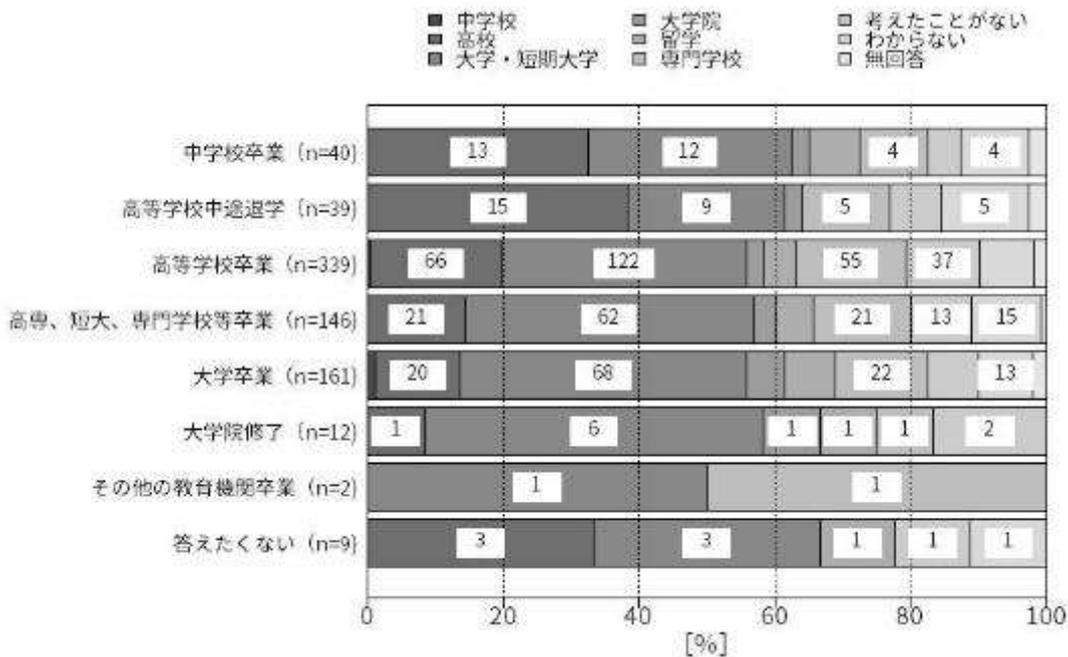
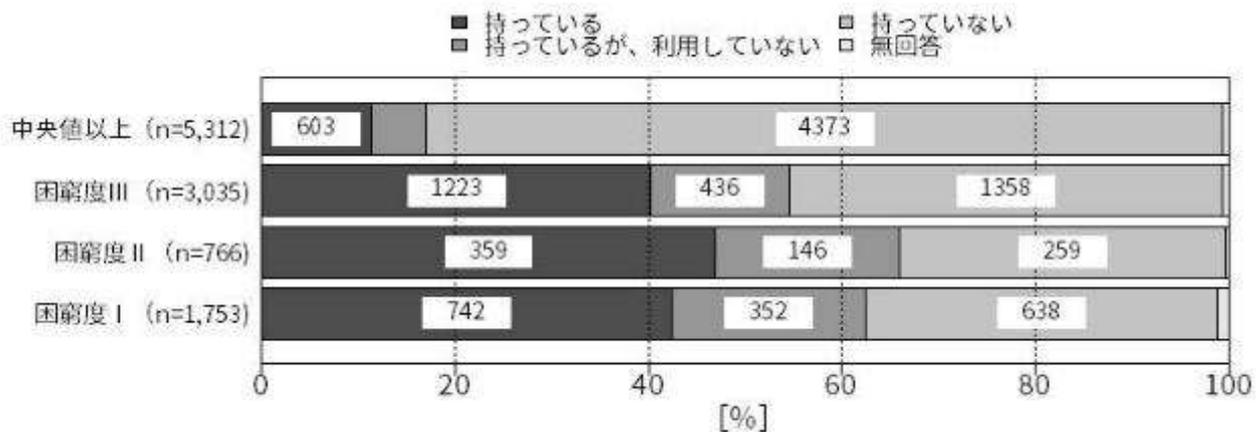


図 214. 父親の最終学歴別に見た、希望する進学先

父親の最終学歴別に子どもの希望する進学先を見ると、父親が中卒または高校中途退者では、「中学校」または「高校」までと回答した子どもの割合が高くなっている傾向にある。

困窮度別に見た、塾代助成カードの所持状況（保護者票 問 18）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

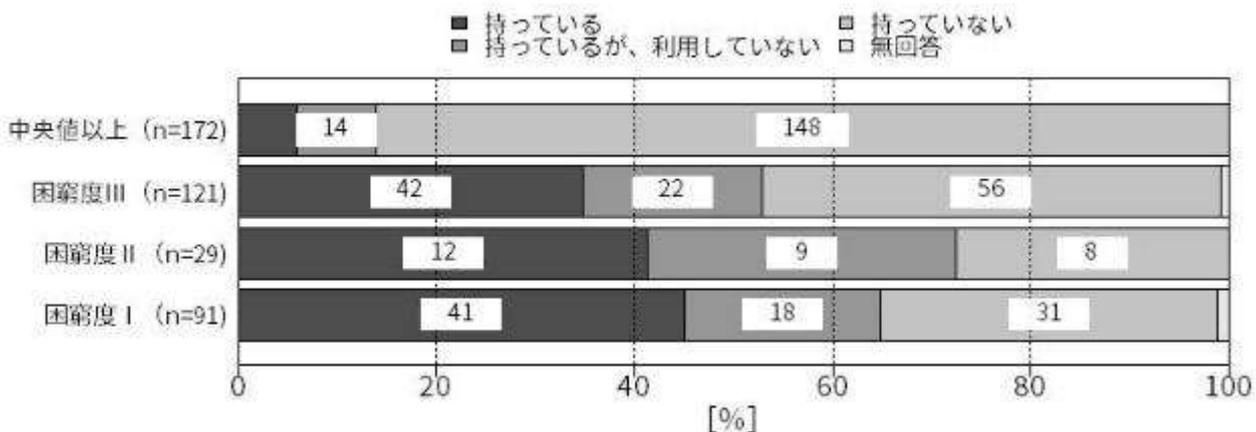
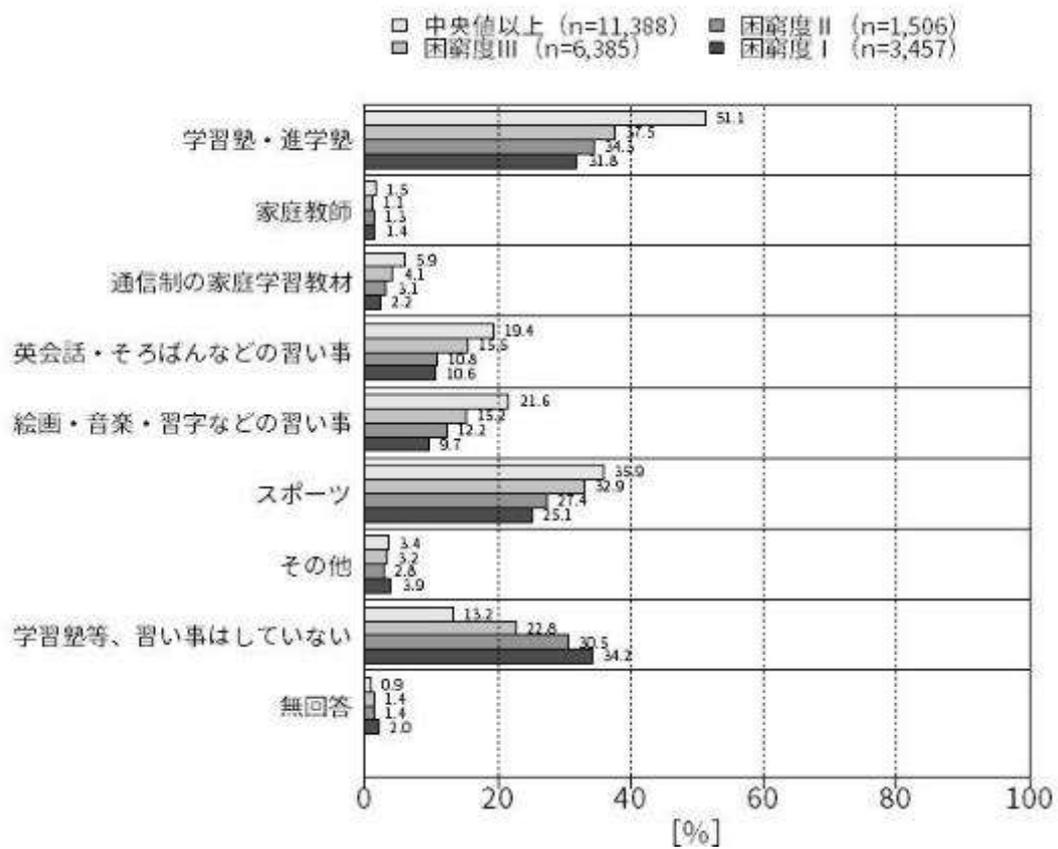


図 215. 困窮度別に見た、塾代助成カードの所持状況

困窮度Ⅰ群では、塾代助成カードを「持っている」が45.1%であったのに対し、困窮度Ⅱ群では41.4%、困窮度Ⅲ群では34.7%であった。

困窮度別に見た、学習塾等の利用状況（子ども票 問15）

<大阪市 24 区>



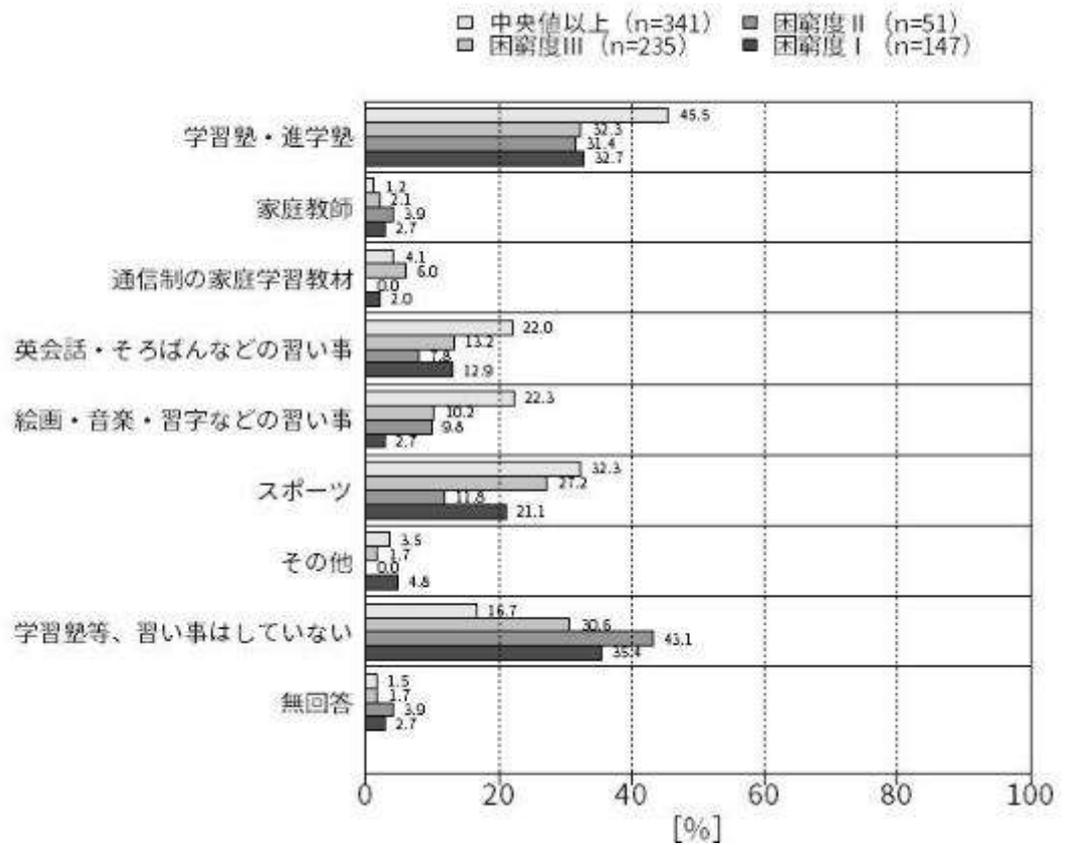
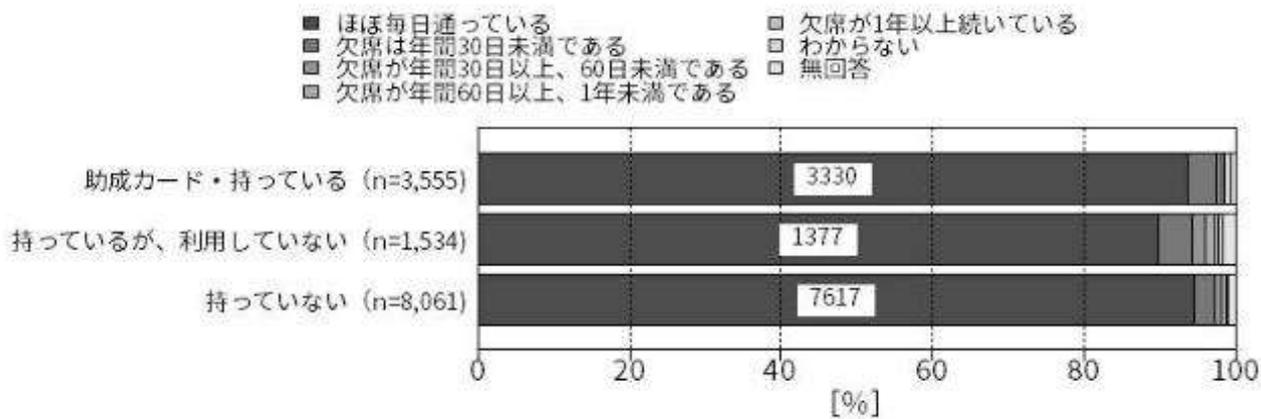


図 216. 困窮度別に見た、学習塾等の利用状況

中央値以上群では、「学習塾・進学塾」に通っていると回答した割合が45.5%であったのに対し、困窮度Ⅰ群では32.7%、困窮度Ⅱ群では31.4%、困窮度Ⅲ群では32.3%であった。「学習塾等、習い事はしていない」と回答したのは、中央値以上群では16.7%であったのに対して、困窮度Ⅰ群では35.4%であった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、通学状況（保護者票 問 18 × 保護者票 問 21）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

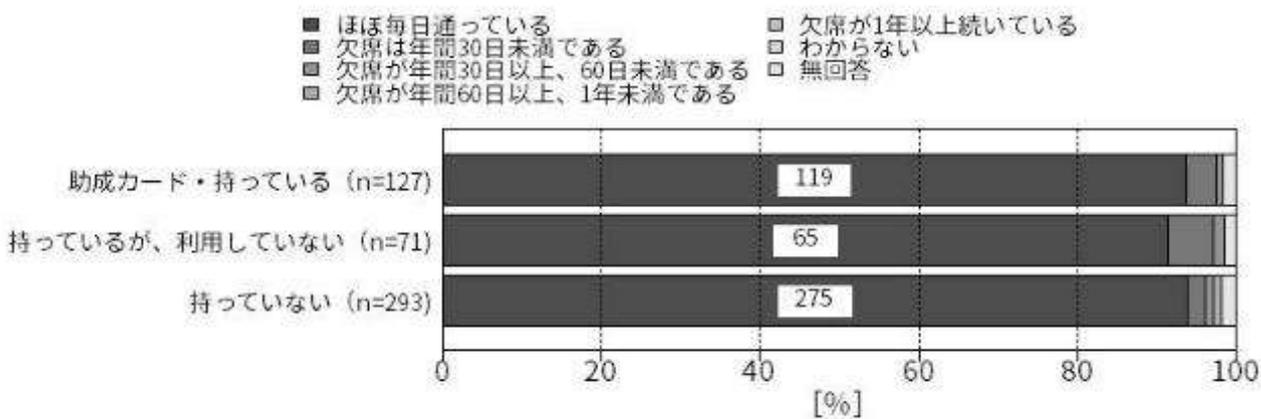
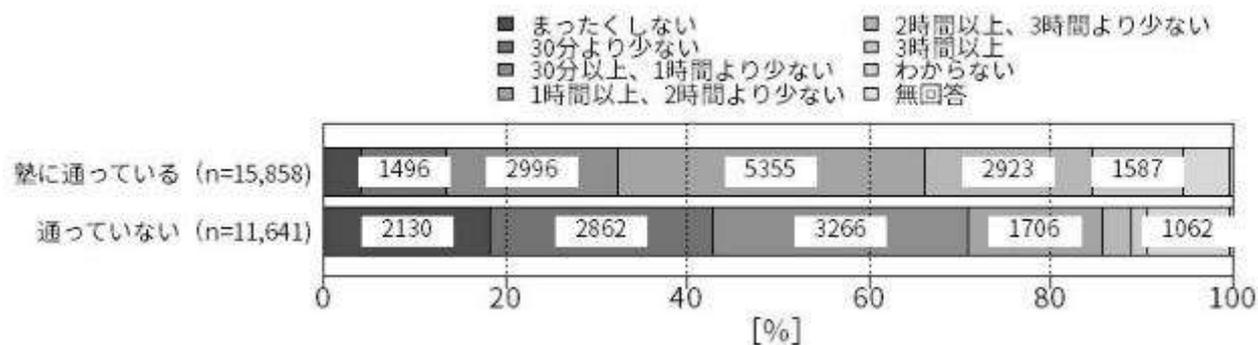


図 217. 塾代助成カードの所持状況別に見た、通学状況

塾助成カードの所持状況によって、大きな差は見られなかった。

学習塾等の利用状況別に見た、授業以外の勉強時間（子ども票 問 15 × 子ども票 問 14）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

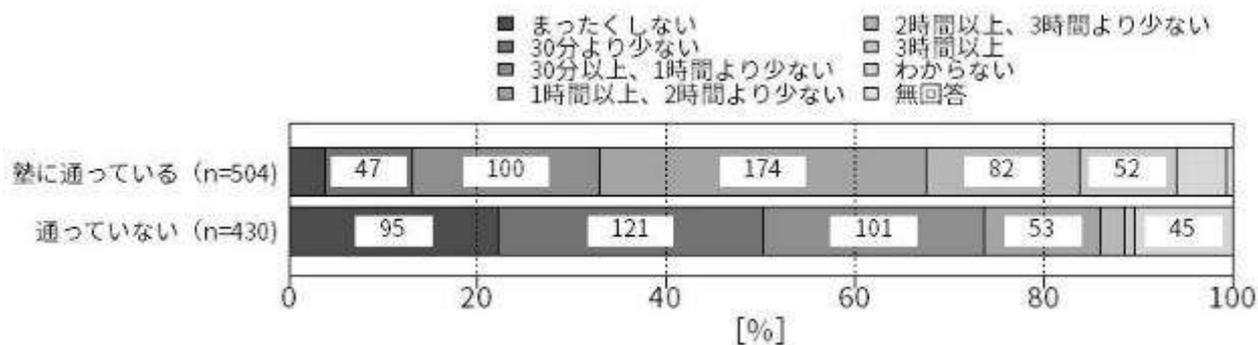
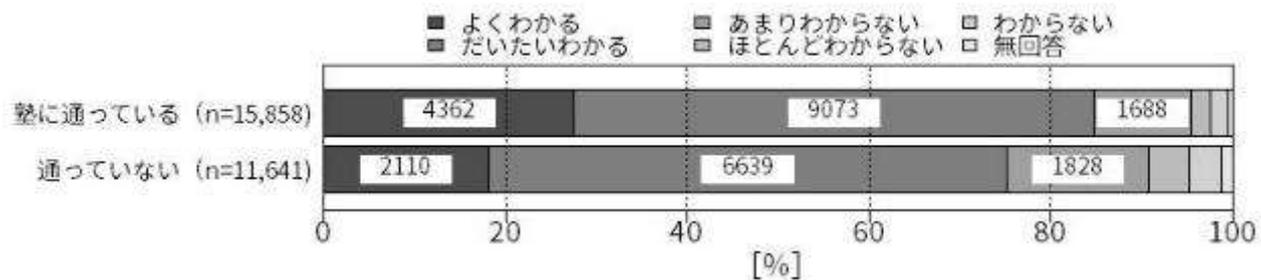


図 218. 学習塾等の利用状況別に見た、授業以外の勉強時間

勉強を中心とした塾に通っていない人は、授業時間以外に勉強を「まったくしない」が22.1%であったのに対し、塾に通っている人は3.8%であった。

学習塾等の利用状況別に見た、学習理解度（子ども票 問15 × 子ども票 問18）

<大阪市24区>



<大阪市港区>

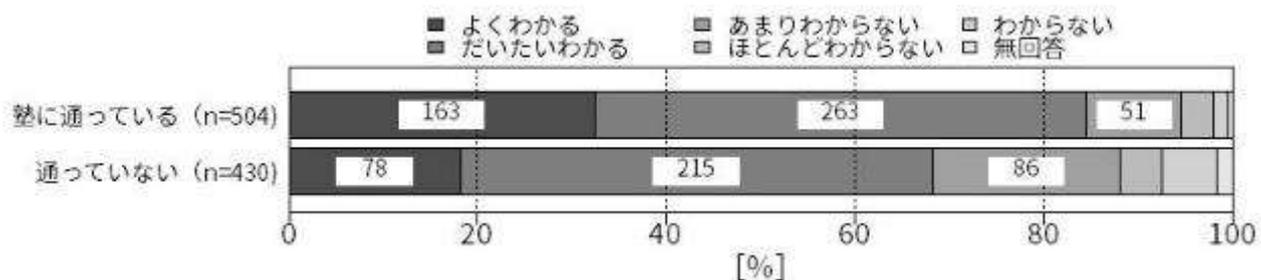
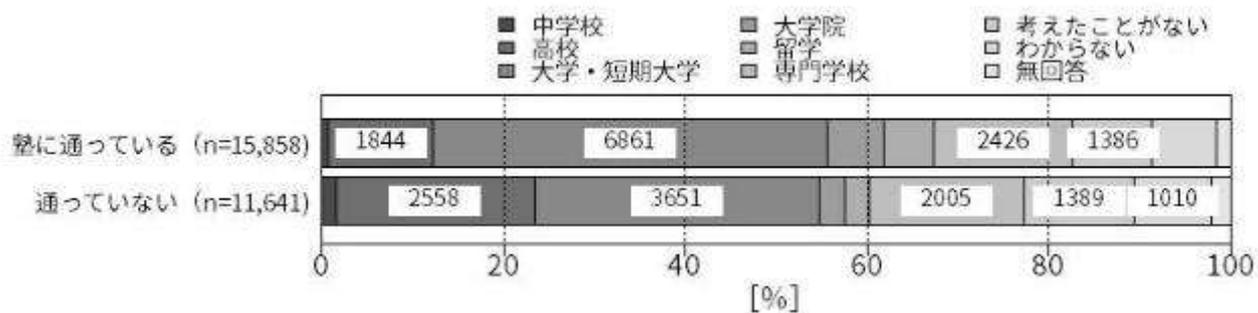


図 219. 学習塾等の利用状況別に見た、学習理解度

勉強を中心とした塾に通っていない人は、学校の勉強が「よくわかる」と答えた割合が18.1%であったのに対し、塾に通っている人は32.3%であった。

学習塾等の利用状況別に見た、希望する進学先（子ども票 問 15 × 子ども票 問 27）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

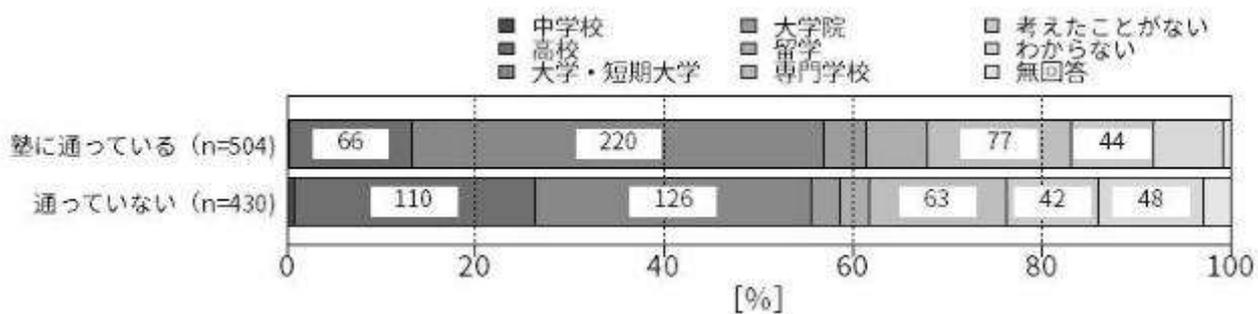


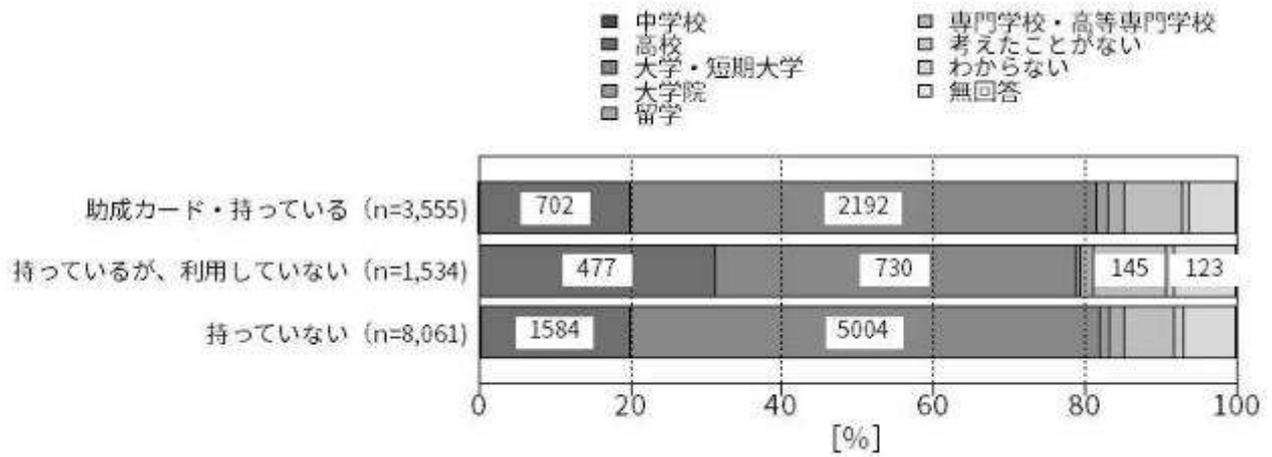
図 220. 学習塾等の利用状況別に見た、希望する進学先

勉強を中心とした塾に通っていない人は、「大学・短期大学」まで行きたいと答えた割合が 29.3%であったのに対し、塾に通っている人は 43.7%であった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、希望する進学先

(保護者票 問 18 × 保護者票 問 15)

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

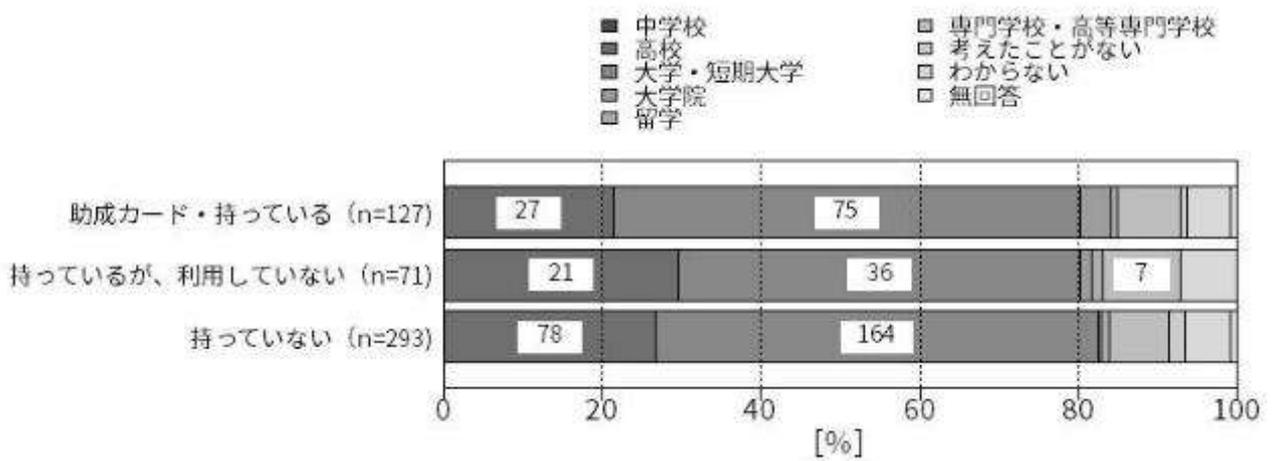


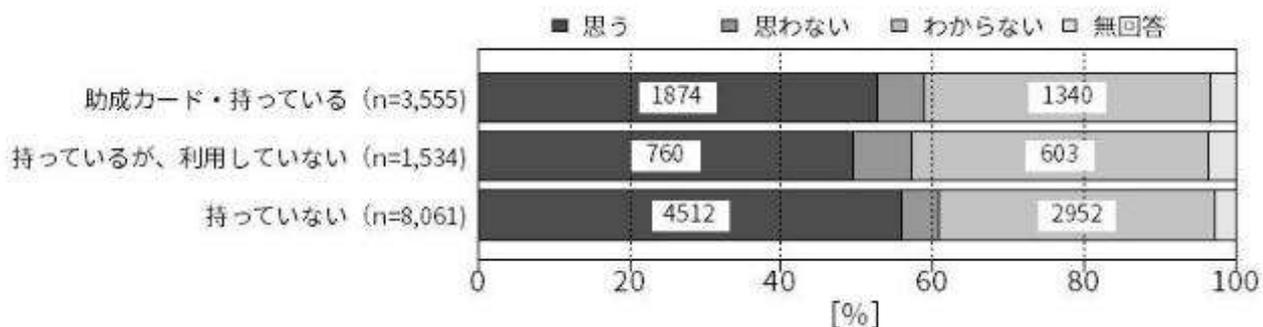
図 221. 塾代助成カードの所持状況別に見た、希望する進学先

塾助成カードを持っている人は、子どもの進学先について「高校」と回答した割合が 21.3%であったのに対し、持っているが利用していない人が 29.6%、持っていない人が 26.6%であった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、子どもの進学達成予測

(保護者票 問 18 × 保護者票 問 16)

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

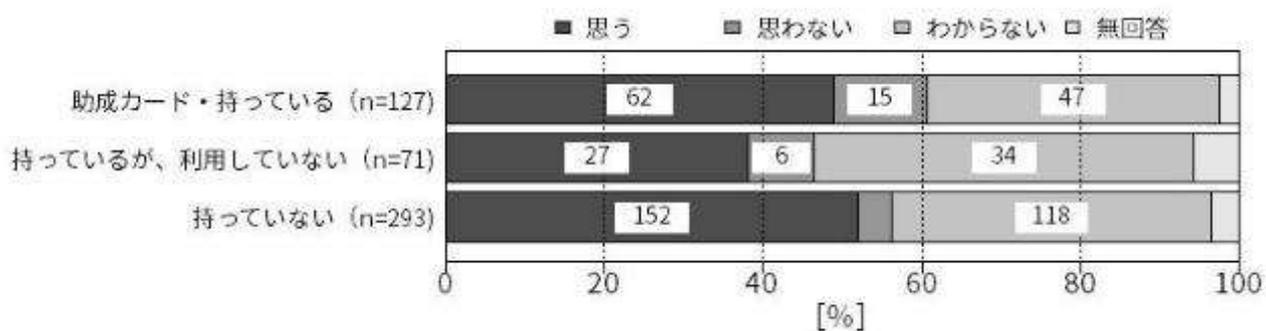
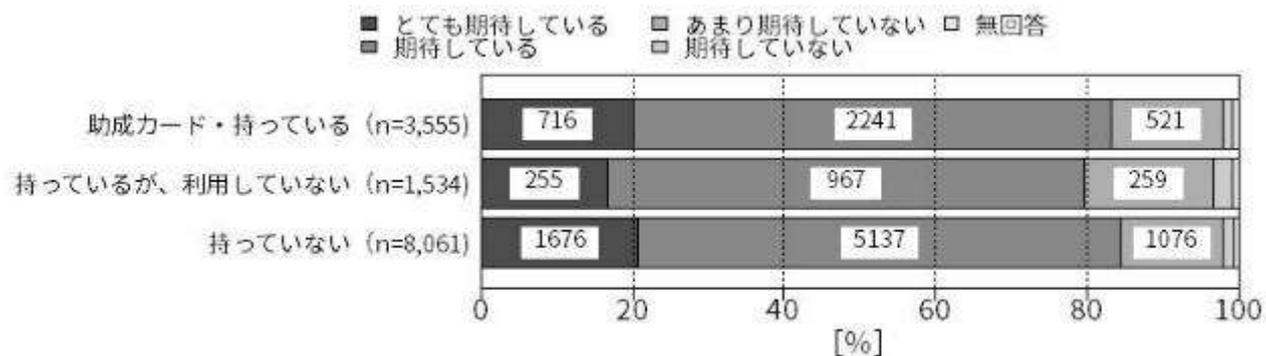


図 222. 塾代助成カードの所持状況別に見た、子どもの進学達成予測

塾助成カードを持っているが利用していない人は、子どもが希望どおりの学校まで進むと思うと回答した割合が 38.0%であったのに対し、持っていない人が 51.9%、持っている人が 48.8%であった。

塾代助成カードの所持状況別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）  
 （保護者票 問 18 × 保護者票 問 14(4)）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

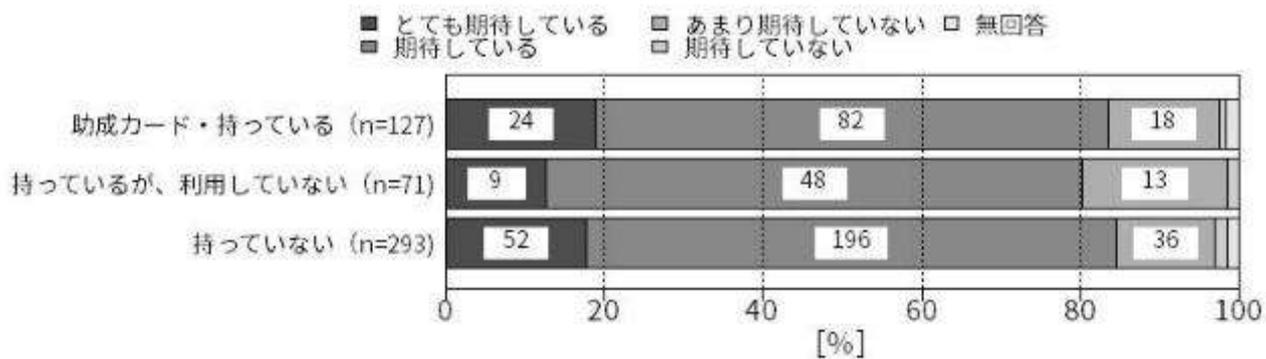


図 223. 塾代助成カードの所持状況別に見た、保護者と子どもの関わり  
 （子どもへの将来の期待）

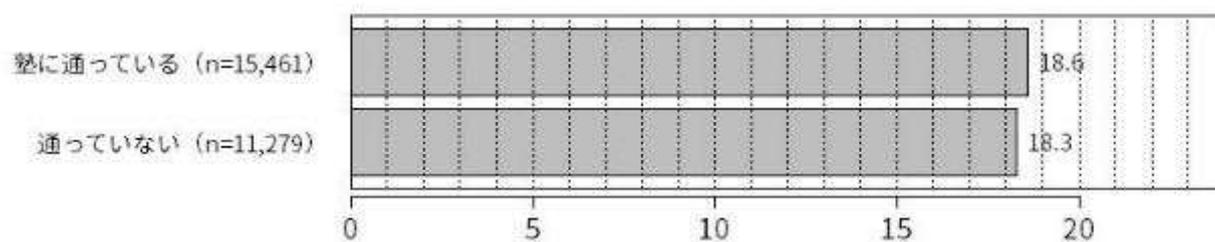
塾代助成カードを持っていない人は、子どもの将来を「ととても期待している」と回答した割合が 17.7%であったのに対し、持っているが利用していない人が 12.7%、持っている人が 18.9%であった。

学習塾等の利用状況別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

(子ども票 問 15 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

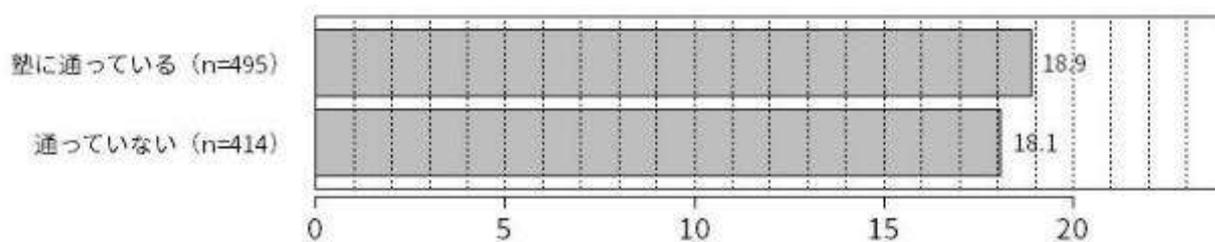
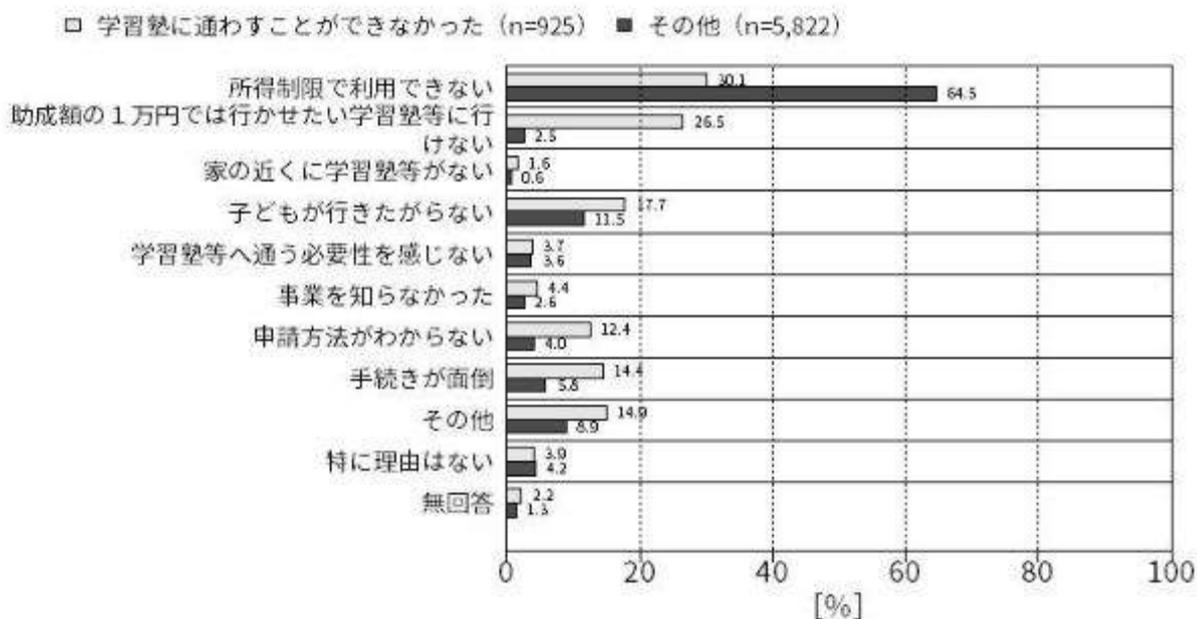


図 224. 学習塾等の利用状況別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

勉強を中心とした塾に通っていない人は、自己効力感（セルフ・エフィカシー）の平均点が 18.1 点であったのに対し、塾に通っている人は 18.9 点であった。

経済的な理由で学習塾に通わすことができなかつたかどうかと、塾代助成カードを持っていない理由  
 (保護者票 問 13 の 9 × 保護者票 問 20)

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

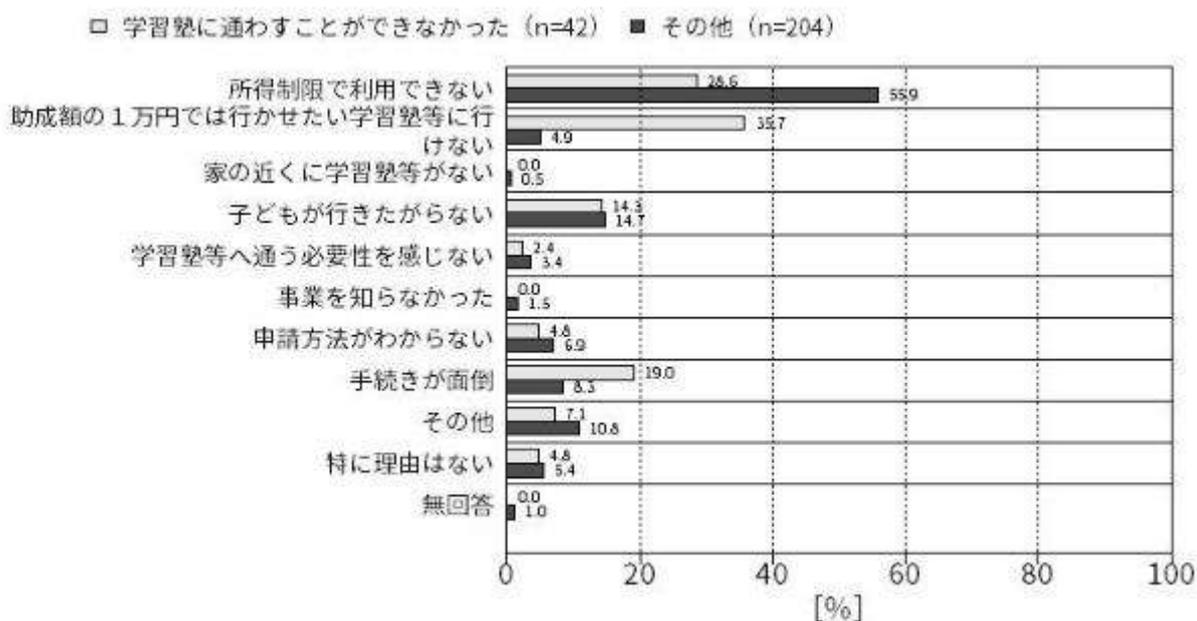
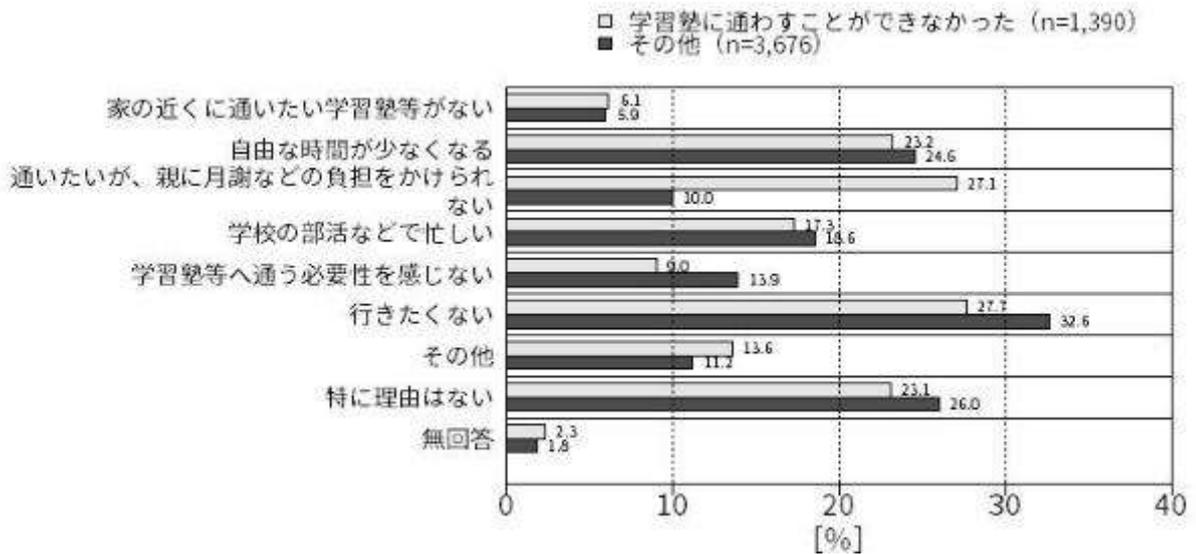


図 225. 経済的な理由で学習塾に通わすことができなかつたかどうかと、塾代助成カードを持っていない理由

塾へ通わせられなかつた人は、「助成額の1万円では行かせたい学習塾等に行けない」という理由が35.7%と多かつた。「手続きが面倒」も19.0%と、その他群に比べ高い。

経済的な理由で学習塾に通わすことができなかったかどうかと、学習塾等に通っていない理由（保護者票 問13の9 × 子ども票 問17)

<大阪市24区>



<大阪市港区>

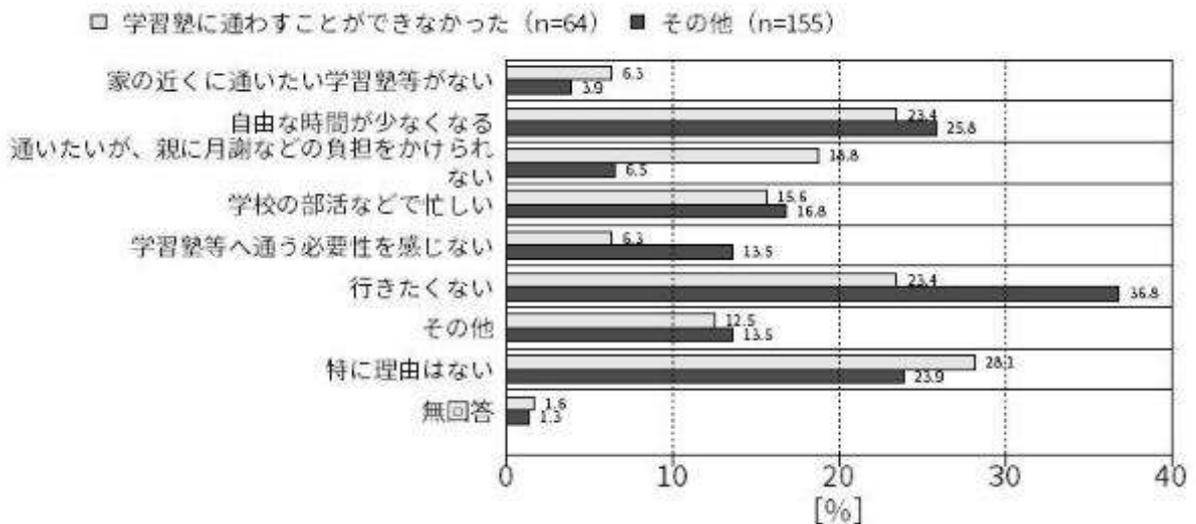


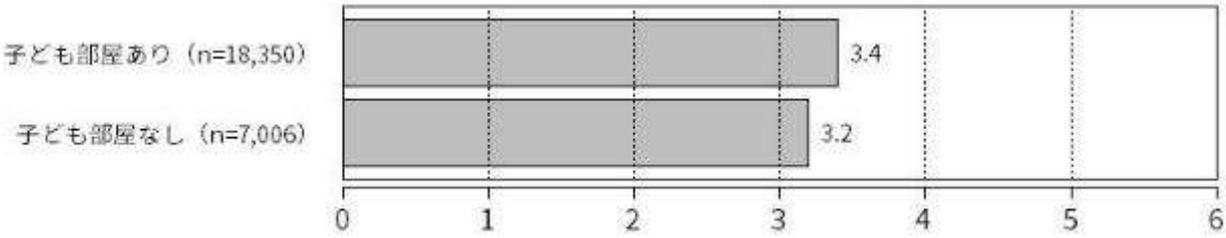
図 226. 経済的な理由で学習塾に通わすことができなかったかどうかと、学習塾等に通っていない理由

塾へ通わせられなかった人はそうでない人に比べ、「通いたい、親に月謝などの負担をかけられない」という理由が18.8%と高かった。

子ども部屋の有無別に見た、勉強時間の平均値（子ども票 問 25 の 3 × 子ども票 問 14）

※勉強時間について、「1. まったくしない」「2. 30分より少ない」「3. 30分以上、1時間より少ない」「4. 1時間以上、2時間より少ない」「5. 2時間以上、3時間より少ない」「6. 3時間以上」の6つの時間枠からひとつを選択させた（「7. わからない」は除く）。項目番号を勉強時間の得点とみなし、得点が高いほど、勉強時間が長いことを表す。

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

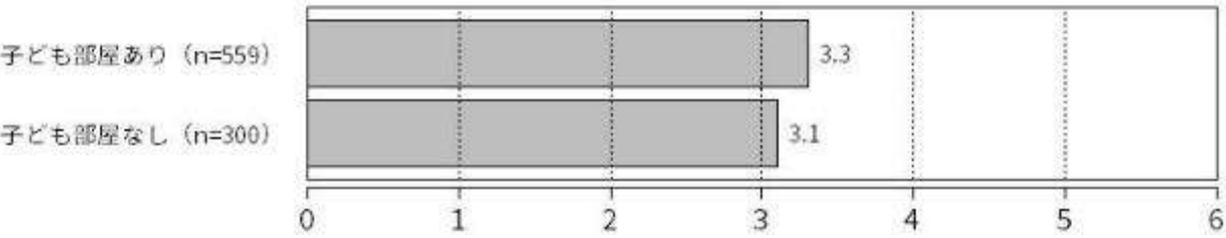
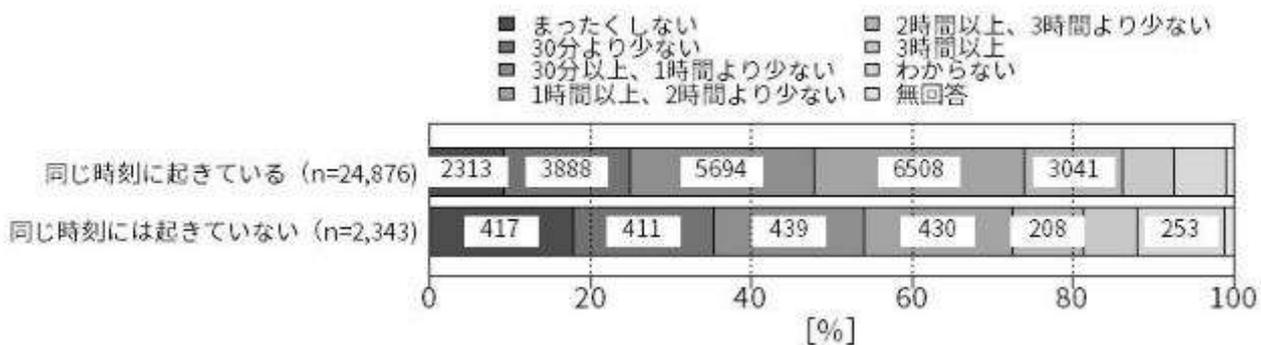


図 227. 子ども部屋の有無別に見た、勉強時間の平均値

子ども部屋がある場合は 3.3 時間、子ども部屋がない場合は 3.1 時間であった。

起床時間の規則性別に見た、授業以外の勉強時間（子ども票 問2 × 子ども票 問14）

<大阪市24区>



<大阪市港区>

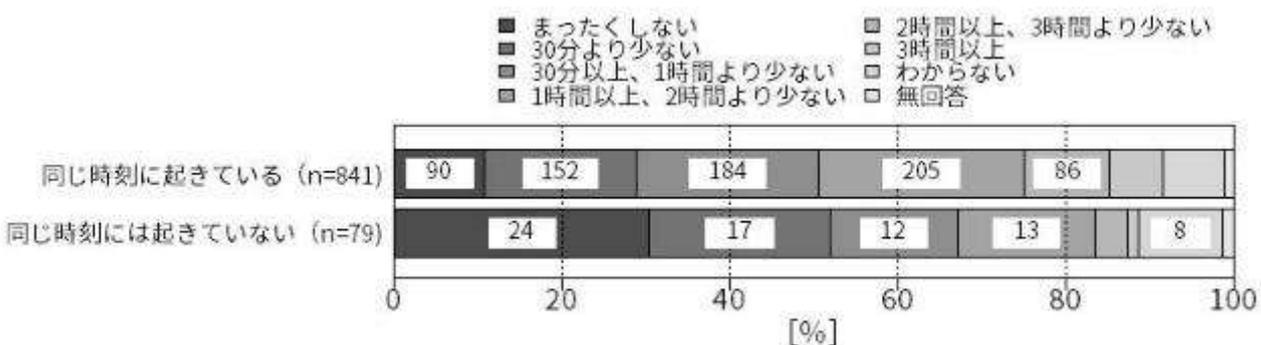


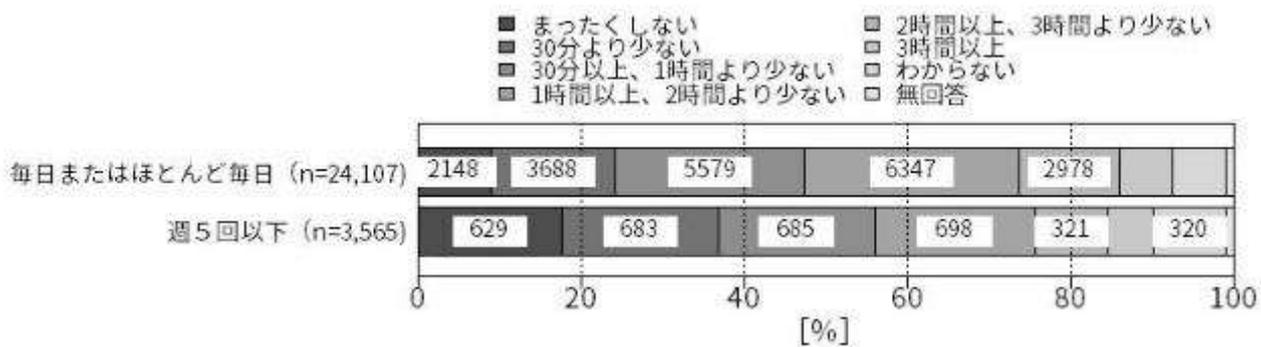
図 228. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の勉強時間

ここでは、子ども票問2において「起きている」「どちらかと言えば、起きている」と回答した子どもを「同じ時刻に起きている」、「あまり、起きていない」「起きていない」と回答した子どもを「同じ時刻には起きていない」としている。

起床時間の規則性別に授業以外の勉強時間を見ると、「同じ時刻に起きている」子どもの方が、「30分以上、1時間より少ない」、「1時間以上、2時間より少ない」、「2時間以上、3時間より少ない」と回答した人の割合が高い。「同じ時刻には起きていない」子どもでは、「まったくしない」と回答した人は30.4%となっている。

朝食の頻度別に見た、授業以外の勉強時間（子ども票 問5(1) × 子ども票 問14)

<大阪市24区>



<大阪市港区>

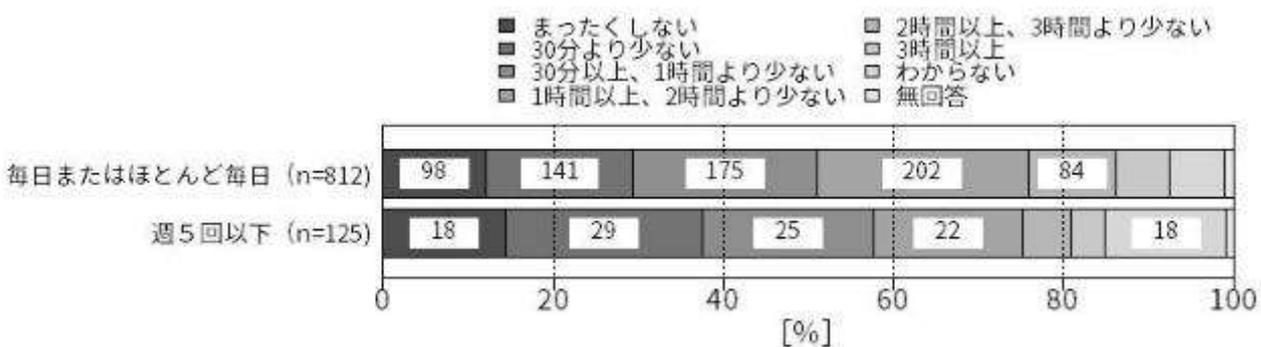


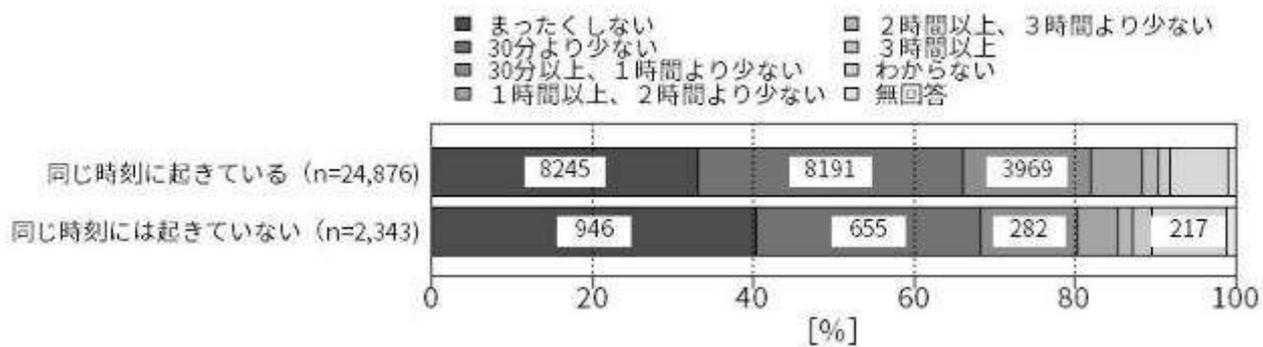
図 229. 朝食の頻度別に見た、授業以外の勉強時間

ここでは、子ども票問5において「毎日またはほとんど毎日」と回答した子どもを「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる、それ以外を選択した子ども（無回答除く）を「週5回以下」としている。

朝食の頻度別に授業以外の勉強時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「まったくしない」と回答したのは17.4%であった。また、同じく「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「30分以上、1時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」「2時間以上、3時間より少ない」と回答した子どもはそれぞれ21.6%、24.9%、10.3%であった。

起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間（子ども票 問2 × 子ども票 問19）

<大阪市24区>



<大阪市港区>

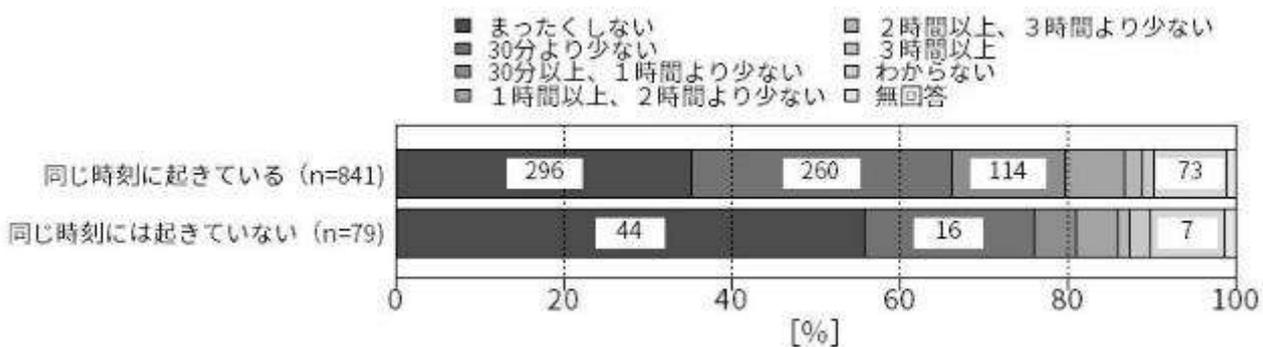
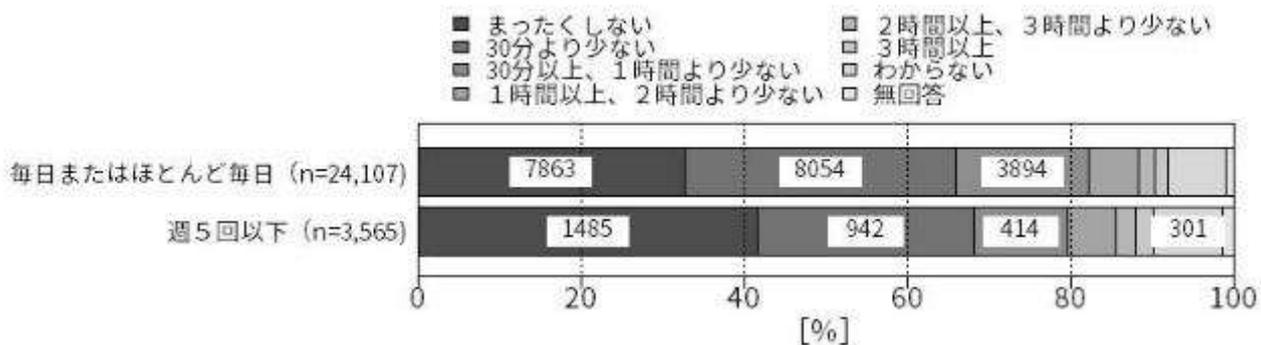


図 230. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間

起床時間の規則性別に授業以外の読書時間を見ると、「同じ時刻には起きていない」子どもでは、「まったくしない」と回答した人は 55.7%である。

朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票 問5(1) × 子ども票 問19)

<大阪市24区>



<大阪市港区>

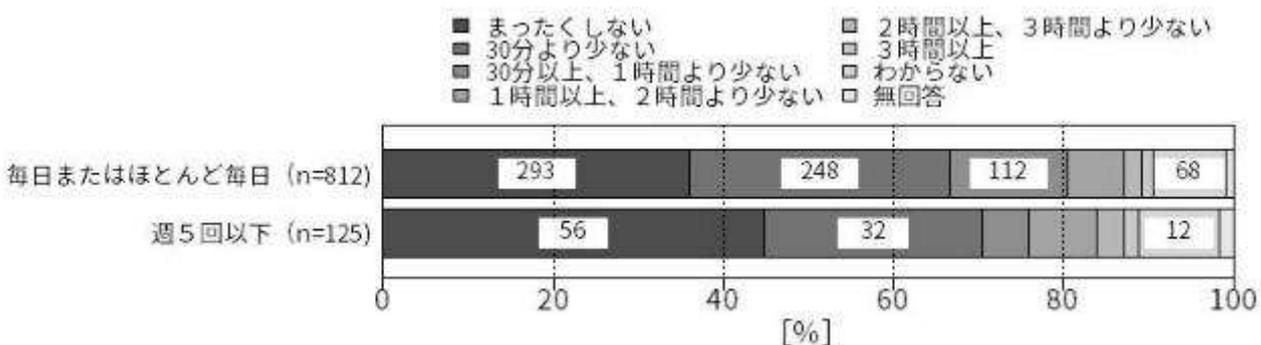


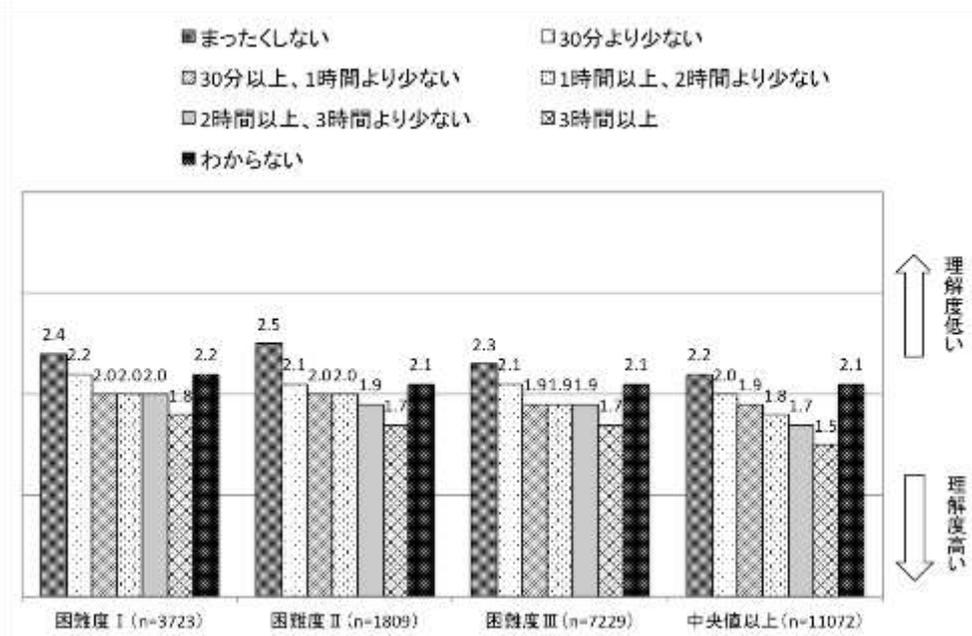
図 231. 朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間

朝食の頻度別に授業以外の読書時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「まったくしない」と回答したのは36.1%である。また、同じく「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「30分以上、1時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」と回答した子どもはそれぞれ13.8%、6.8%であった。

困窮度別に見た、授業以外の勉強時間と学習理解度の関連（子ども票 問18）

※学習理解度について、「1. よくわかる」～「4. ほとんどわからない」まで4項目で評定させた。数値が低いほど、学習理解度が高いことを表す。

<大阪市24区>



<大阪市港区>

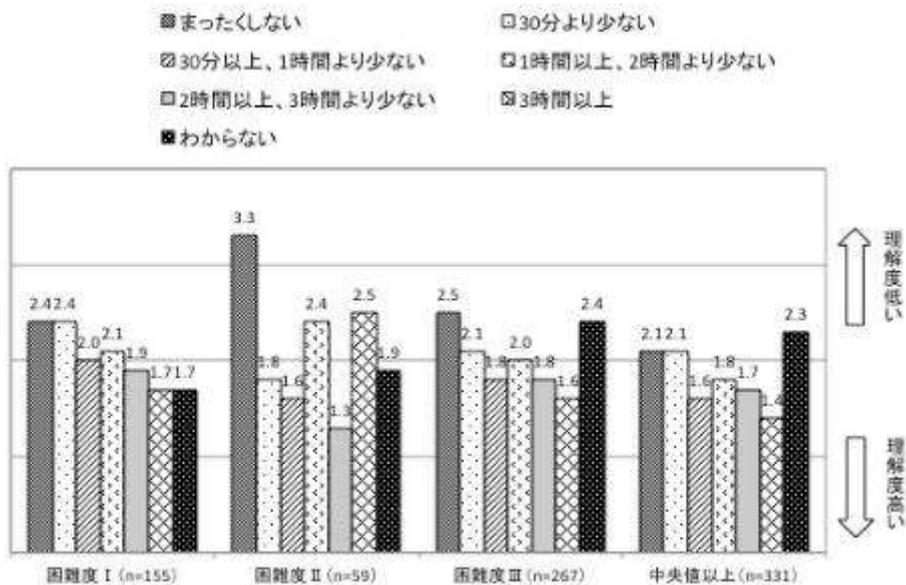


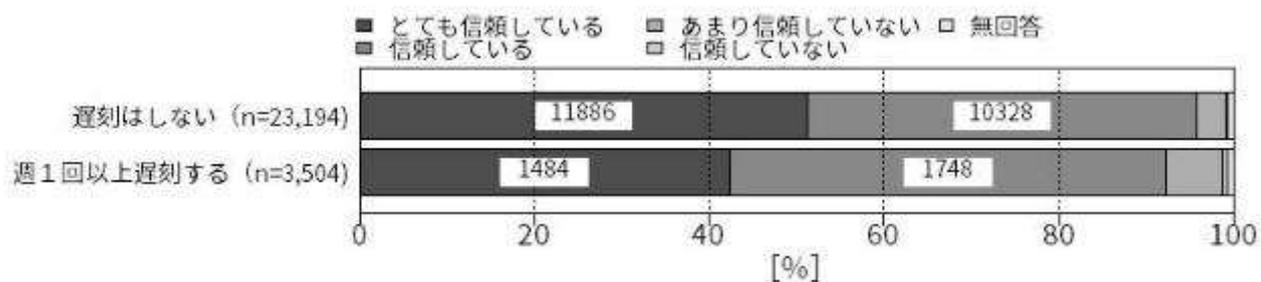
図 232. 困窮度別に見た、授業以外の勉強時間と学習理解度の関連

困窮度Ⅰ群・困窮度Ⅲ群・中央値以上群においては、同じ勉強時間であっても困窮度が高まると、理解度が低くなった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

（子ども票 問9 × 保護者票 問14(1)）

<大阪市24区>



<大阪市港区>

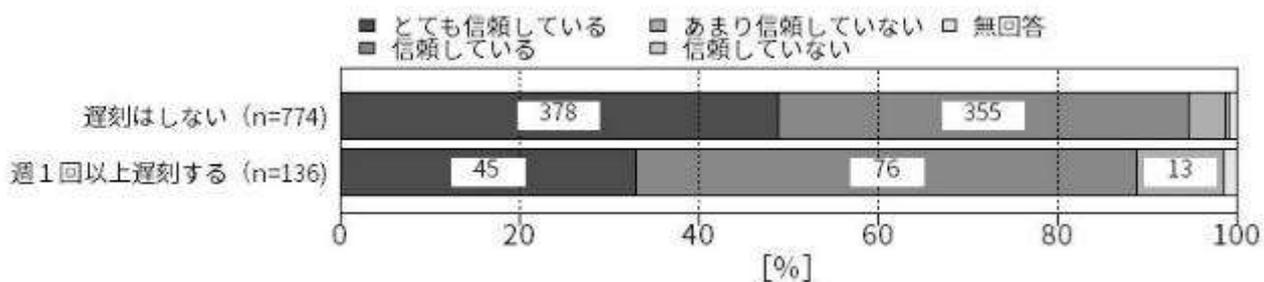


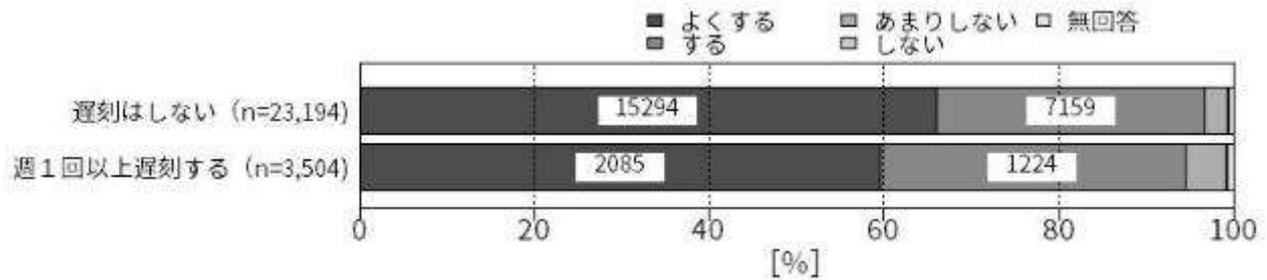
図 233. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

ここでは、子ども票問9において「遅刻はしない」と回答した子どもを「遅刻はしない」、それ以外を選択した子ども（無回答除く）を「週1回以上遅刻する」としている。

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者は「とても信頼している」割合が48.8%であった。「週1回以上遅刻する」子どもにおいては、保護者は「あまり信頼していない」割合が9.6%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）  
 （子ども票 問9 × 保護者票 問14(2)）

<大阪市24区>



<大阪市港区>

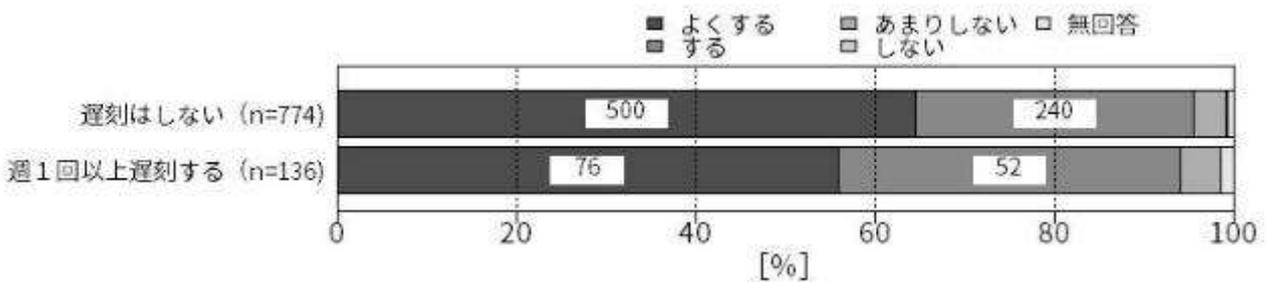


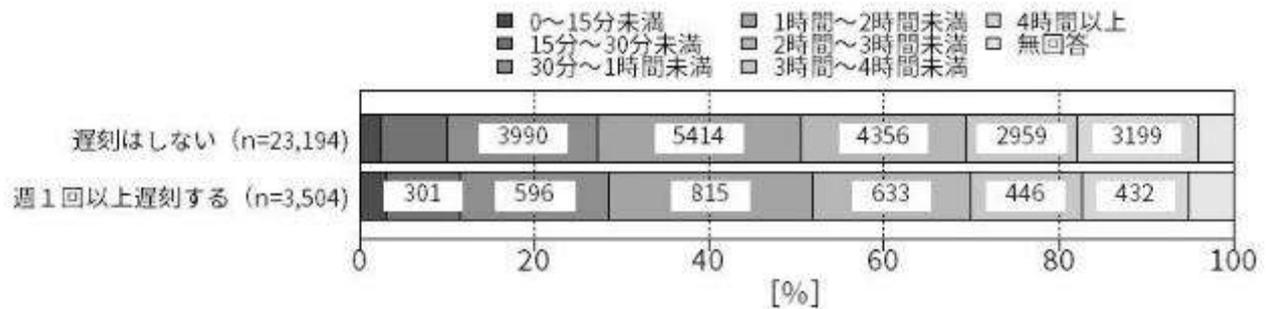
図 234. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

ここでは、子ども票問9において「遅刻はしない」と回答した子どもを「遅刻はしない」、それ以外を選択した子ども（無回答除く）を「週1回以上遅刻する」としている。

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもと会話）を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者は会話を「よくする」割合が64.6%であった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））  
 （子ども票 問9 × 保護者票 問14(3)）

<大阪市24区>



<大阪市港区>

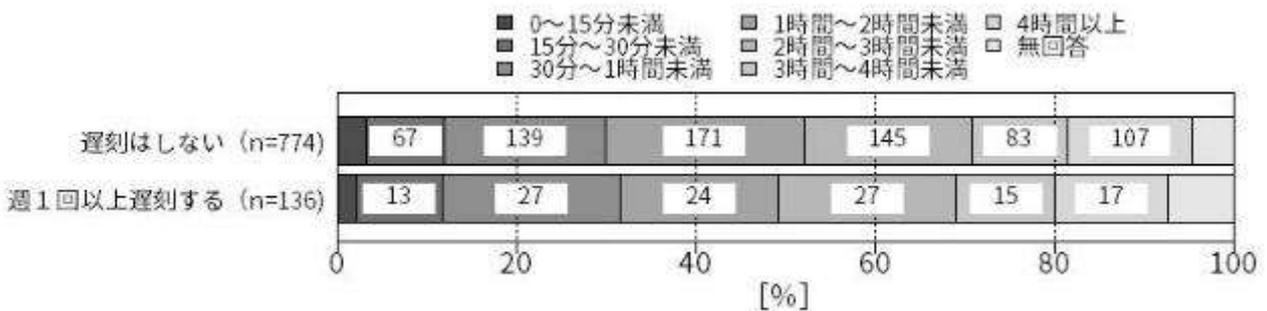
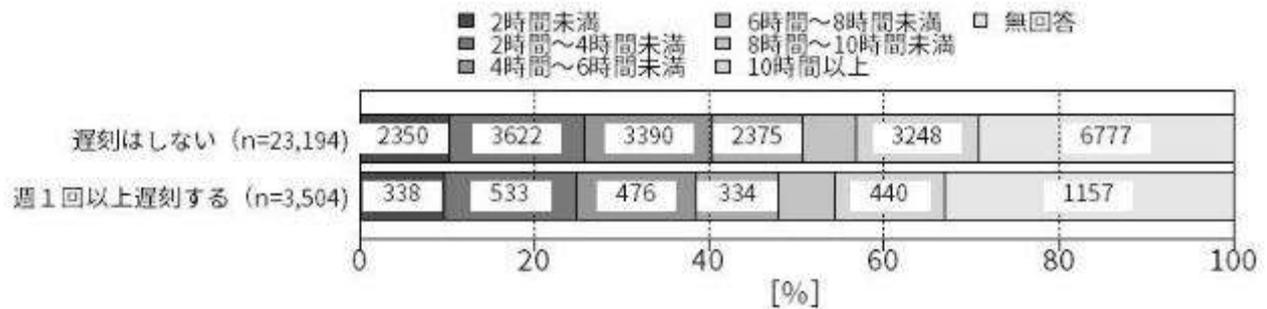


図 235. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり  
 （子どもと一緒にいる時間（平日））

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））を見ると、大きな差は見られなかった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））  
 （子ども票 問9 × 保護者票 問14(3)）

<大阪市24区>



<大阪市港区>

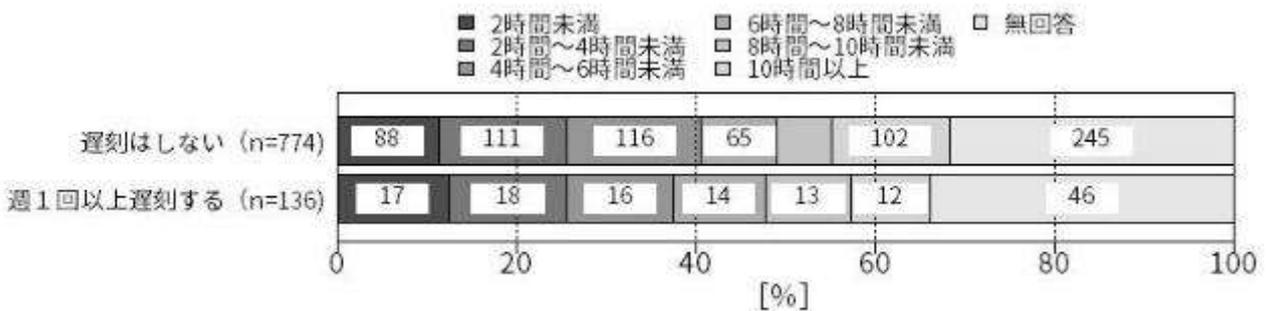
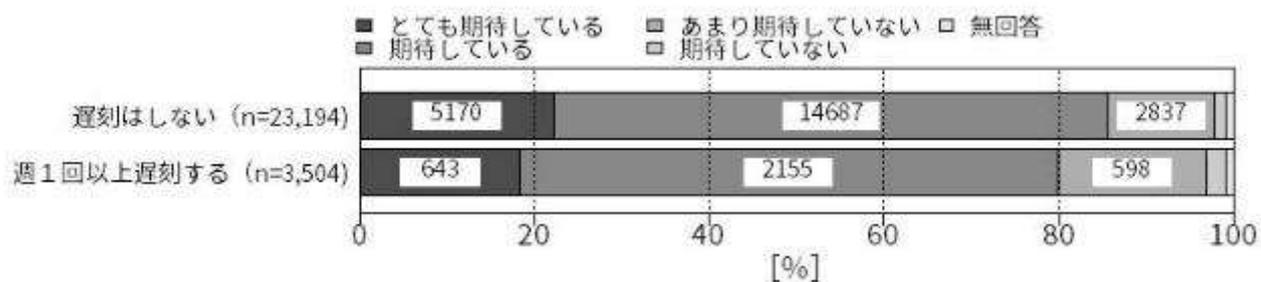


図 236. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり  
 （子どもと一緒にいる時間（休日））

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもの一緒にいる時間（休日））を見ると、遅刻はしない子どもにおいては、保護者との関わりは「2時間未満」「2時間～4時間未満」「4時間～6時間未満」の割合は、それぞれ11.4%、14.3%、15.0%であった。「週1回以上遅刻する」子どもにおいては、「2時間未満」「2時間～4時間未満」「4時間～6時間未満」の割合は、それぞれ12.5%、13.2%、11.8%であった。また、いずれも無回答の割合が高かった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）  
 （子ども票 問9 × 保護者票 問14(4)）

<大阪市24区>



<大阪市港区>

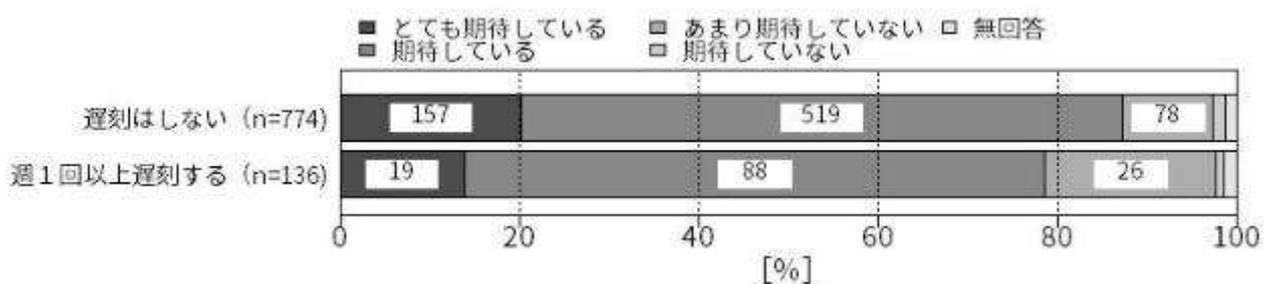
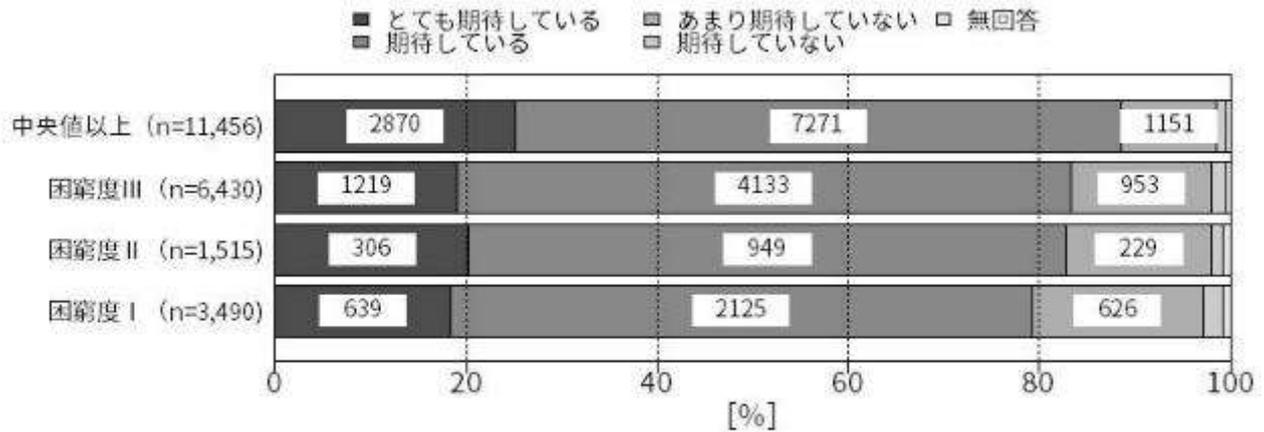


図 237. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者は子どもの将来に「とても期待している」割合は、20.3%であった。「週1回以上遅刻する」子どもにおいては、14.0%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）  
（保護者票 問 14(4)）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

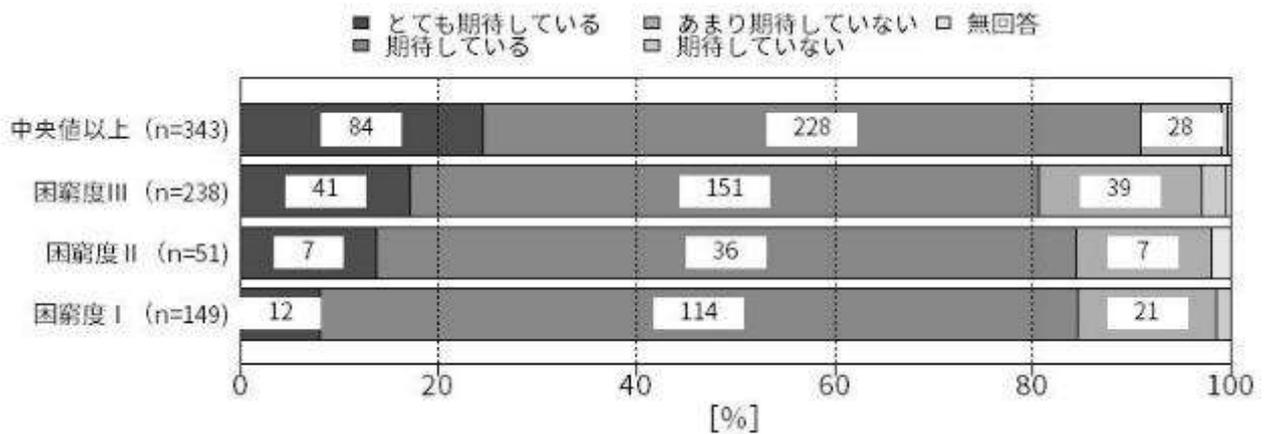
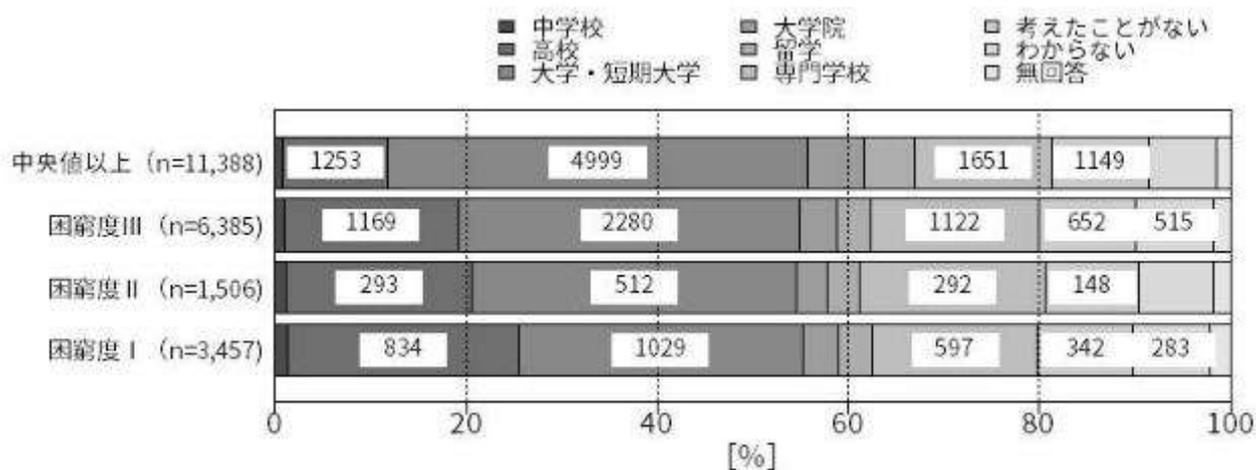


図 238. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「とても期待している」と回答した割合が低くなっている傾向にある。困窮度Ⅰ群において「とても期待している」は8.1%にとどまった。

困窮度別に見た、希望する進学先（子ども票 問 27）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

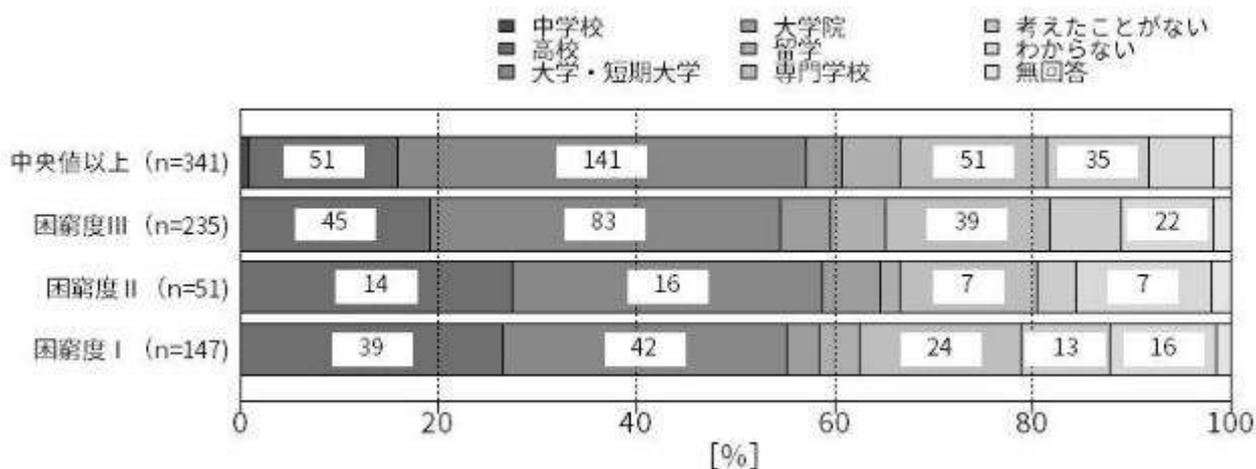
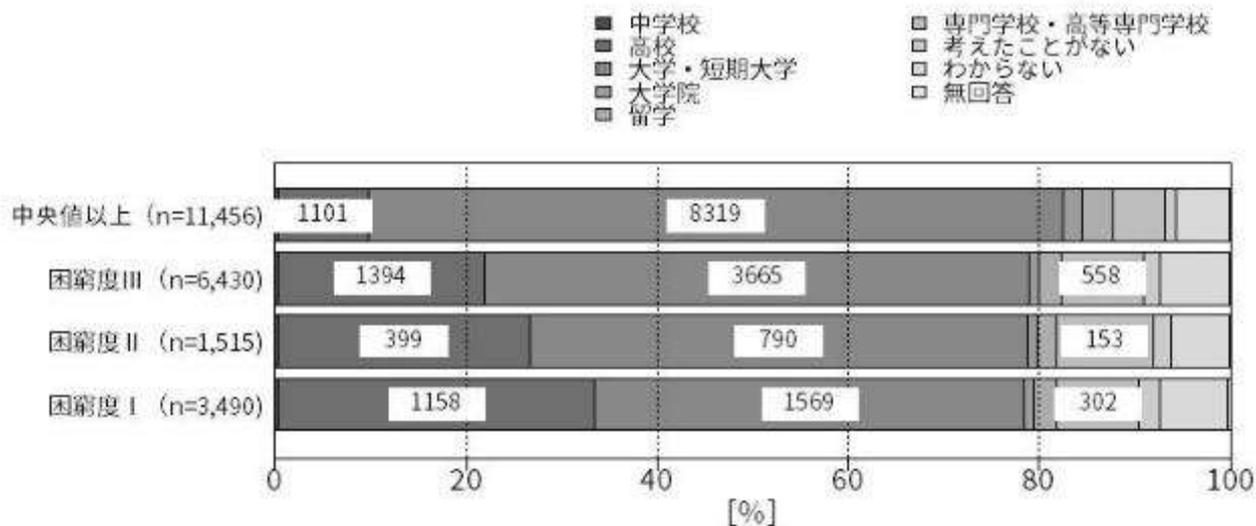


図 239. 困窮度別に見た、希望する進学先

困窮度別に子どもの希望する進学先を見ると、困窮度が高まるにつれ、高校卒業までの割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「中学校」「高校」と回答した子どもは合計 26.5%、「専門学校」と回答した子どもは 16.3%であった。中央値以上群において「大学・短期大学」と回答した割合は 41.3%であった。

困窮度別に見た、子どもの進学予測（保護者票 問15）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

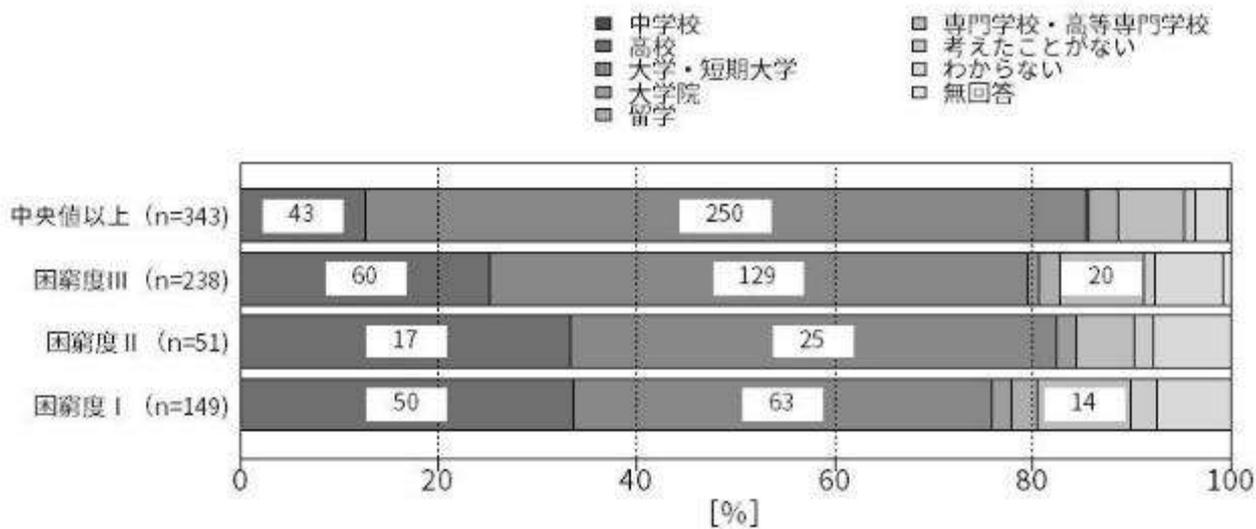
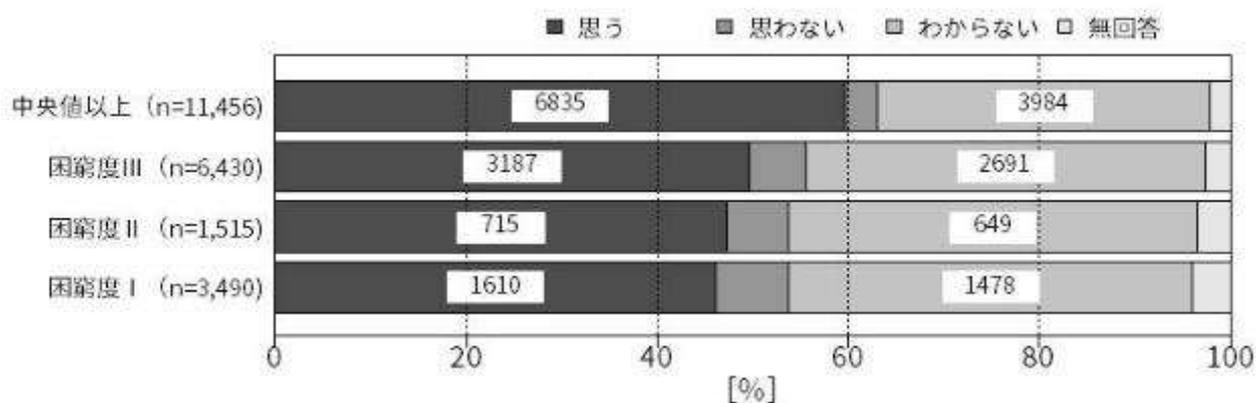


図 240. 困窮度別に見た、子どもの進学予測

困窮度別に子どもの進学予測（保護者による）を見ると、困窮度が高まるにつれ、高校卒業までの割合と「専門学校」と回答した子どもの割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「中学校」「高校」と回答した人は合計 33.6%、「専門学校」と回答した人は 9.4%であった。中央値以上群において「大学・短期大学」と回答した割合は 72.9%であった。

困窮度別に見た、子どもの進学達成予測（保護者票 問 16）

<大阪市 24 区>



<大阪市港区>

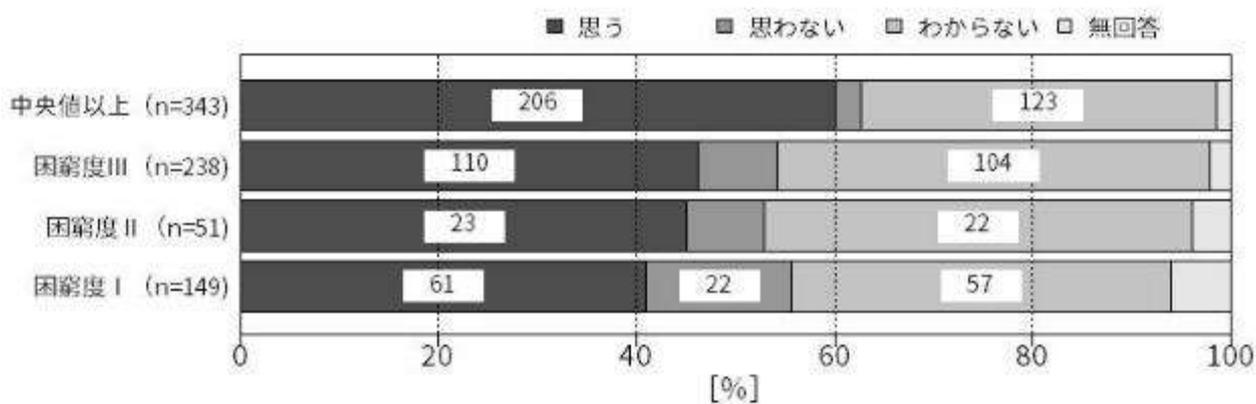


図 241. 困窮度別に見た、子どもの進学達成予測

困窮度別に子どもの進学達成予測（保護者による）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「思う」と回答した保護者の割合が低くなっている。中央値以上群において「思う」と回答した割合は 60.1%であったのに対し、困窮度Ⅰ群では 40.9%であった。